ONKYO®

AV センター

TX-SA503

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■各種サラウンド方式に対応した7.1チャンネルアンプ
■ドルビー*1デジタル、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能
■DTS*2、DTS-ES Discrete、DTS-ES Matrix、DTS Neo : 6、DTS 96/24サラウンド再生可能
■MPEG-2 AAC再生可能
■ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
■高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Cinema FILTER*3」機能
■192kHz/24bit D/Aコンバーター搭載
■飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
■再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）
■ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統装備
■3系統のS-Video入力端子装備
■5.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audio、スーパーオーディオCDプレーヤーへの拡張性を実現
■デジタル入力端子として光2系統、同軸1系統、デジタル出力端子として光1系統装備
■他機の操作を可能にするプリプログラム機能搭載のリモコン付属

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

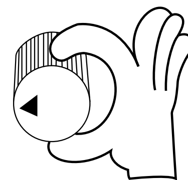
*2 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS 96/24”、“DTS-ES”および“Neo : 6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

*3 Cinema FILTERは、オンキヨーの商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



目次

はじめに

接続をする

初期設定をする

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

こんなこともできます

録音・録画する

接続した製品を本機のリモコンで操作する

その他

設定をする（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

設定をする（リスニングモード編）

オーディオ機器の正しい使いかた

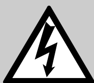
オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



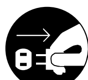


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない





電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



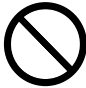
●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

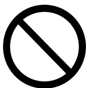

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。


水ぬれ禁止

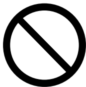
●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



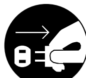
●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない



●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

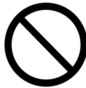


電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

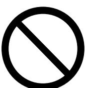


●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



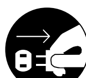
●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない



●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない


接触禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

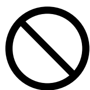
■ 乾電池を充電しない



●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

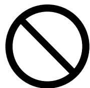
⚠注意

■ 設置上の注意



●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



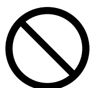
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



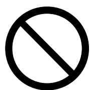
●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器と接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

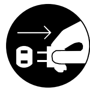


●電源を入れたときは音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



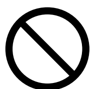
電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

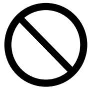


●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



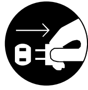
●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて



●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について



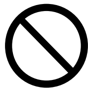
電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

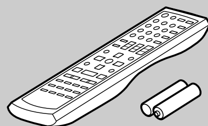


●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

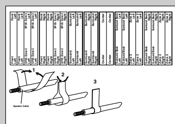
付属品を確認する

■付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。



リモコン（RC-607M)…(1)
乾電池（単三形、R6)…(2)

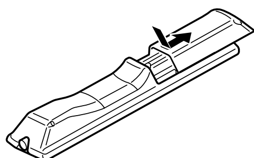


スピーカーコード用ラベル…(1)

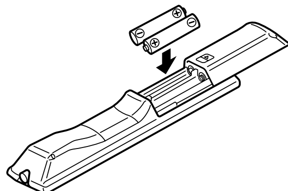
取扱説明書（本書)…(1)
保証書…(1)
オンキヨーご相談窓口・
修理窓口のご案内…(1)

乾電池を入れる

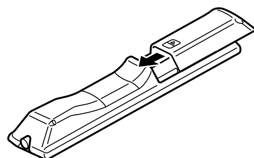
1. カバーを矢印の方向にずらして開ける



2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる



3. カバーを戻す



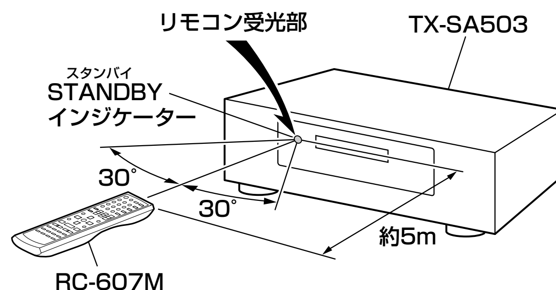


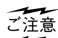
ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。





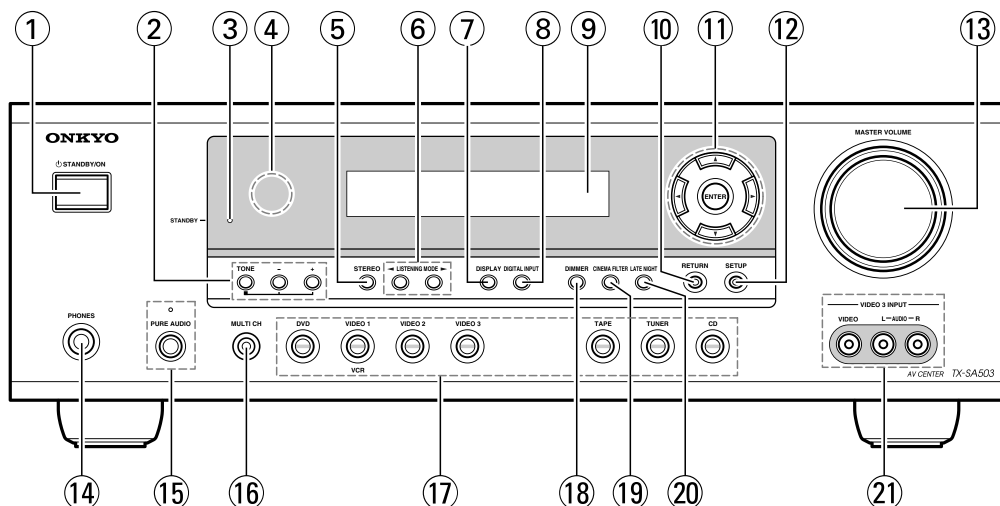
ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。



① STANDBY/ONボタン〔31〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

② TONE +/－ボタン〔38〕
低音、高音を調整するときに使用します。+ボタンを押すとレベルが高くなり、－ボタンを押すと低くなります。

③ STANDBYインジケーター〔31〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

④ リモコン受光部〔8〕
リモコンからの信号を受信します。

⑤ STEREOボタン〔40〕
リスニングモードを「Stereo」にします。

⑥ LISTENING MODE◀/▶ボタン〔40〕
リスニングモードを選びます。

⑦ DISPLAYボタン〔39〕
表示部の情報を切り換えます。

⑧ DIGITAL INPUTボタン〔34、49〕
デジタル入力を割り当てるとき、デジタル入力信号の種類を選ぶときに使用します。

⑨ 表示部
次ページをご覧ください。

⑩ RETURN ボタン
設定中に表示部を1つ前の表示に戻します。

⑪ カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタン〔32、33、44～48〕
設定項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑫ SETUPボタン〔32、33、44～48〕
いろいろな設定を行います。

⑬ MASTER VOLUMEつまみ〔36〕
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･78・79・Maxの範囲で調整できます。

⑭ PHONES端子〔37〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑮ PURE AUDIO ボタンとインジケーター〔40〕
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、インジケーターが点灯します。

⑯ MULTI CHボタン〔38〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

⑰ 入力切換ボタン（DVD、VIDEO1～3、TAPE、TUNER、CD）〔36〕
再生する機器を選びます。

⑱ DIMMERボタン〔37〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑲ CINEMA FILTERボタン〔45〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

⑳ LATE NIGHTボタン〔45〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

㉑ VIDEO 3 INPUT端子
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

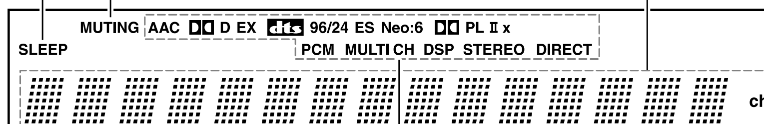
表示部

〔　〕内のページに主な説明があります。

SLEEP（スリープ）表示〔37〕
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

MUTING（ミューティング）表示〔37〕
ミューティングが働いているときに点滅します。

多目的表示部
入力ソースと音量を表示します。
DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットや、リスニングモードを表示します。



デジタル入力信号フォーマット/リスニングモード表示〔40〕
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

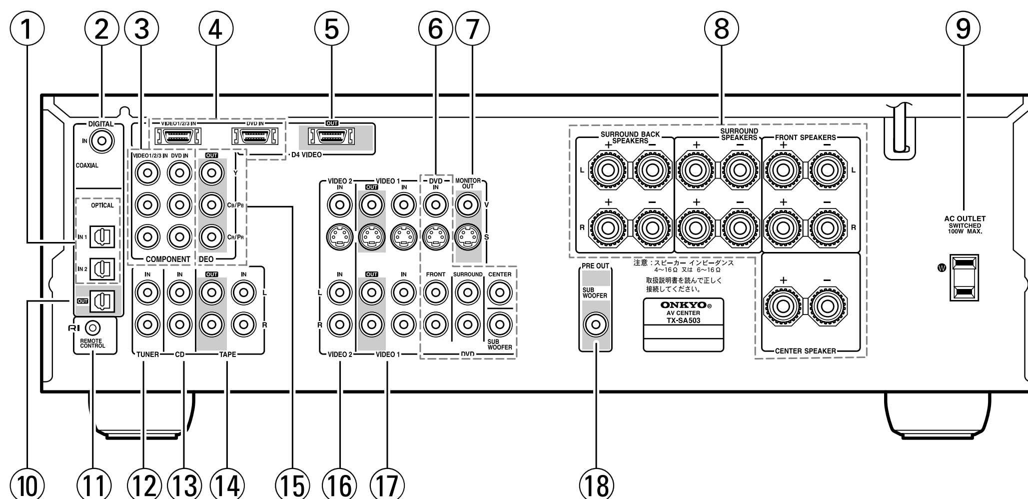
入力信号フォーマット表示

表示	フォーマット
D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC
MULTI CH	アナログマルチチャンネル

リスニングモード表示例

表示	リスニングモード
DIRECT	Direct
STEREO	Stereo
PL II	PL II Movie/Music/Game
PL II x	PL II x Movie/Music/Game
dts Neo:6	Neo:6 Cinema/Music
D	Dolby Digital
D EX	Dolby Digital EX
dts	DTS
dts 96/24	DTS 96/24
dts ES	DTS−ES
dts Neo:6	DTS ＋ Neo:6
EX dts	DTS ＋ Dolby EX
AAC	AAC
AAC EX	AAC ＋ Dolby EX
DSP	オンキヨー独自のリスニングモード

後面パネル



① DIGITAL IN 1、2端子（OPTICAL）
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

② DIGITAL IN端子（COAXIAL）
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

③ COMPONENT DVD IN、VIDEO1/2/3 IN端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

④ D4 VIDEO DVD IN、VIDEO1/2/3 IN端子
接続した機器からD映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑤ D4 VIDEO OUT端子
本機からD映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑥ DVD IN端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑦ MONITOR OUT端子
接続した映像機器の映像を、本機を通してテレビなどのモニターに映します。

⑧ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

⑨ AC OUTLET（電源コンセント）
本機に接続するオーディオ機器の電源プラグを接続することができます。

⑩ DIGITAL OUT端子（OPTICAL）
デジタル音声の出力端子。
デジタル録音機器を接続します。

⑪ RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑫ TUNER IN端子
チューナーを接続します。

⑬ CD IN端子
CDプレーヤーを接続します。

⑭ TAPE IN/OUT端子
テープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑮ COMPONENT VIDEO OUT端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑯ VIDEO 2 IN端子
BS/CSチューナーなどを接続します。

⑰ VIDEO 1 IN/OUT端子
ビデオデッキやDVDレコーダーなどを接続します。

⑱ SUBWOOFER PRE OUT端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します。

接続については、16〜30ページをご覧ください。

リモコン（RC-607M）

AMP/RECEIVER/TAPEモード（本機/RI接続したチューナーやカセットデッキを操作するとき）

〔　〕内のページに主な説明があります。

本機を操作する前に、AMP/RECEIVER/TAPEボタンを押してください。

STANDBYボタン〔31〕
本機をスタンバイ状態にします。

ONボタン〔31〕
本機の電源を入れます。

入力切換ボタン〔36〕
再生する機器を選びます。

MULTI CHボタン〔38〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

DIMMERボタン〔37〕
表示部の明るさを切り換えます。

SLEEPボタン〔37〕
スリープタイマーを設定します。

CH＋/－ボタン*
チューナーのプリセット番号を選択します。

▲/▼/◀/▶/ENTERボタン〔32、33、44～48〕
設定中に上下左右ボタンを押して項目を選択します。
ENTERボタンを押すと、選択した項目を確定します。

RETURNボタン
設定中に、表示部を1つ前の表示に戻します。

オーディオ設定ボタン

TEST TONEボタン〔48〕
スピーカーの音量レベルを設定するときに使用します。

CH SELボタン〔48、49〕
距離または音量レベルを調整したいスピーカーを選択します。

LEVEL＋/－ボタン〔48、49〕
CH SELボタンで選択したスピーカーレベルを調整します。

L NIGHTボタン〔45〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

CINE FLTRボタン〔45〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

DISPLAYボタン〔39〕
表示部の表示を切り換えます。

AMP/RECEIVER/TAPEボタン
リモコンをAMPモードに設定し、本機を操作できるようにします。
本機を操作するときは、まずこのボタンを押してください。
また、本機にRI接続したチューナーやカセットデッキを操作する場合にもこのボタンを押してください。

REMOTE MODEボタン〔51〕
このリモコンは、これらのボタンでリモコン自体のモードを切り換えることによって、本機に接続した他の機器も操作することができます。リモコン操作時に設定されているモードのMODEボタンが点灯します。

VOL▲/▼ボタン〔36〕
音量を調整します。
他のリモコンモード時でも使用できます。

MUTINGボタン〔37〕
音を一時的に小さくします。

SETUPボタン〔32、33、44～48〕
表示部に設定内容を表示させます。

カセットデッキ操作ボタン*

◀ボタン
テープの裏面を再生します。

▶ボタン
テープの表面を再生します。

■ボタン
再生を停止します。

◀◀/▶▶ボタン
巻戻し、早送りをします。

リスニングモードボタン〔40〕
他のリモコンモード時でも使用できます。

STEREOボタン
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

SURROUNDボタン
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードを選びます。

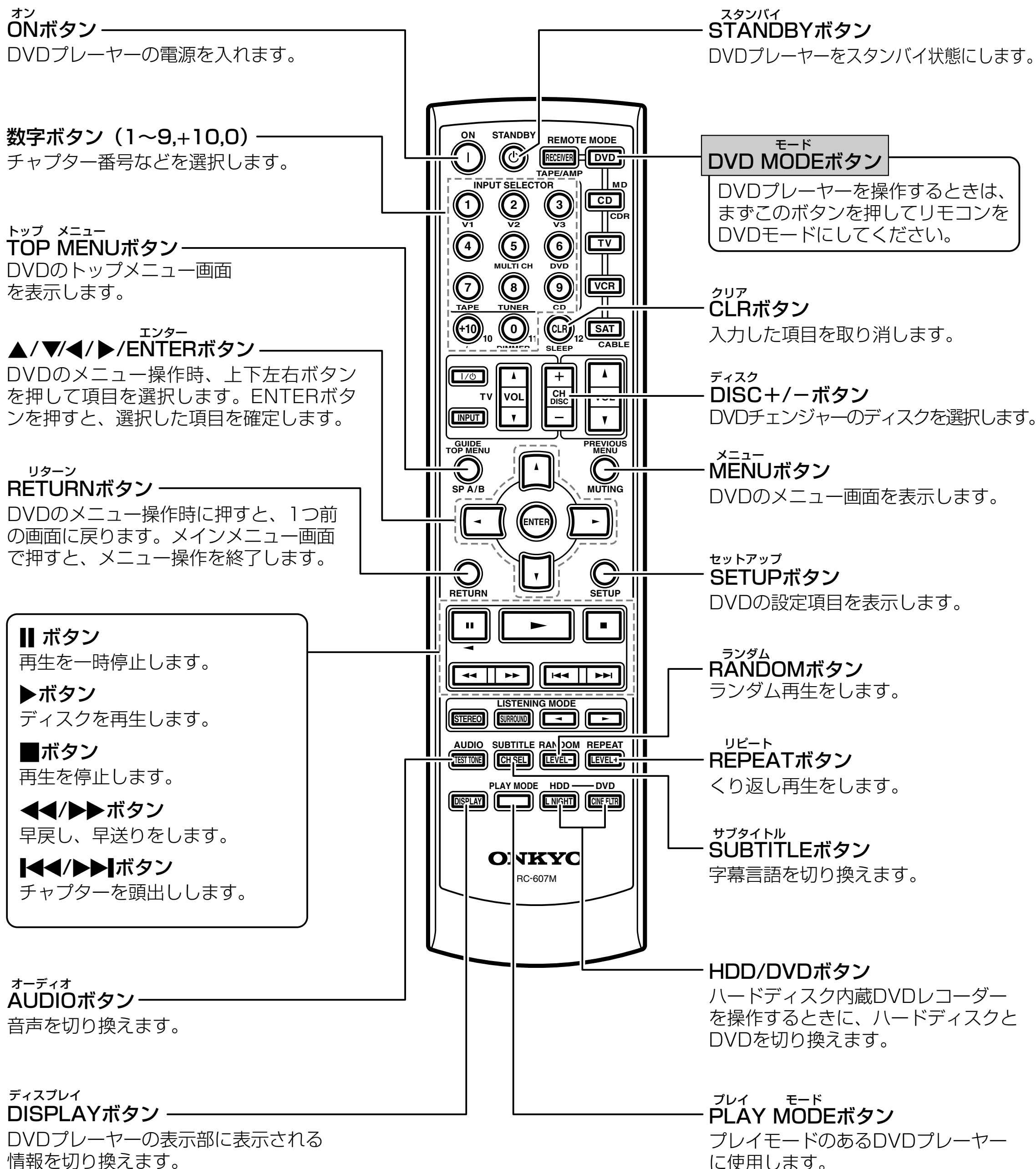
◀/▶ボタン
リスニングモードを選びます。

＊チューナーやカセットデッキを操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製DVDプレーヤーを操作することができます。他社の製品を操作するときは、51ページでリモコンコードを登録してください。

DVDモード（本機に接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

接続するDVDプレーヤーや再生するDVDによっては、対応していない機能もあります。



本体、リモコンボタンの名前と働き

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製CDプレーヤーを操作することができます。MDレコーダー、CDレコーダーや他社の製品を操作するときは、51ページでリモコンコードを登録してください。

CD/MD/CDRモード（本機に接続したCDプレーヤー/MDレコーダー/CDレコーダーを操作するとき）

操作する機器によっては、対応していない機能もあります。

STANDBY（スタンバイ）ボタン
機器によって、CDプレーヤー/MDレコーダー/CDレコーダーをスタンバイ状態にします。

ON（オン）ボタン
CDプレーヤー/MDレコーダー/CDレコーダーのスタンバイ/オンを切り換えます。

数字ボタン（1〜9,+10,0）
曲番などを選択します。

▌▌ボタン
再生を一時停止します。

▶ボタン
ディスクを再生します。

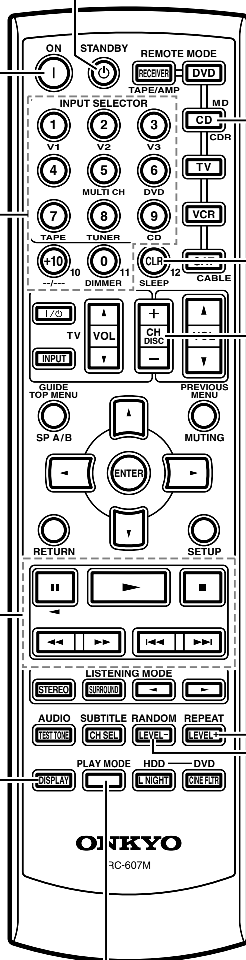
■ボタン
再生を停止します。

◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。

▌◀◀/▶▶▌ボタン
トラックを頭出しします。

DISPLAY（ディスプレイ）ボタン
CDプレーヤー/MDレコーダー/CDレコーダーの表示部に表示される情報を切り換えます。

PLAY MODE（プレイ モード）ボタン
プレイモードのある機器に使用します。



CD/MD/CDR MODEボタン
まずこのボタンを押してリモコンをCD/MD/CDRモードにしてください。

CLR（クリア）ボタン
入力した項目を取り消します。

DISC（ディスク） +/−ボタン
CDチェンジャーのディスクを選択します。

REPEAT（リピート）ボタン
くり返し再生をします。

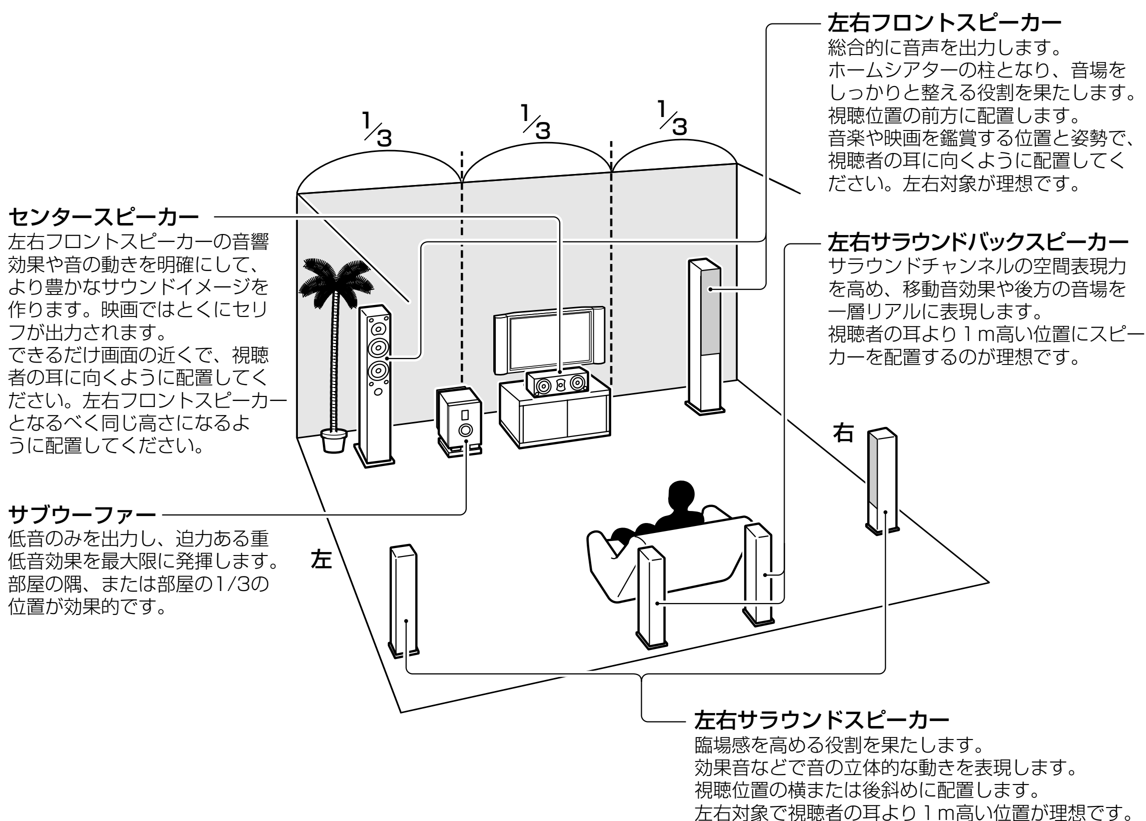
RANDOM（ランダム）ボタン
ランダム再生をします。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。（2チャンネル再生）
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3チャンネルサラウンド）
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（4チャンネルサラウンド）
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（5チャンネルサラウンド）
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。（6チャンネルサラウンド）
7つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。（7チャンネルサラウンド）
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。（○.1チャンネル再生）



- 電源を入れたらまず、接続したスピーカーの「有/無」を設定してください。（☞32ページ）
- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く時間を一定にするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。（☞47、48ページ）

接続をする

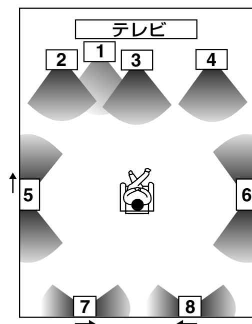
スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーの配置について

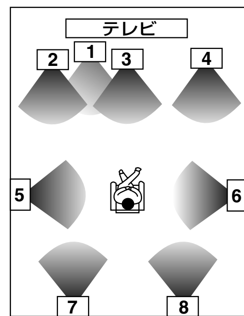
サラウンドバックスピーカーは、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic IIx、DTS-ESMatrix、DTS-ES Discreteなどのリスニングモードを楽しむときに必要です。
設置例1は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相 ： 正弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例1



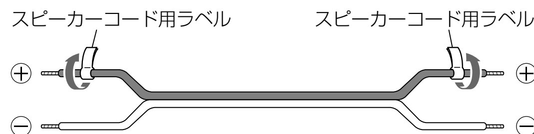
設置例2



1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

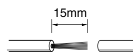


左フロント	：**白**	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：**赤**	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：**緑**	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：**青**	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：**灰**	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：**茶**	左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：**ベージュ**	右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

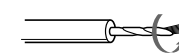
スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

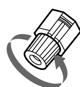
①スピーカーコードの被覆を15mmカットする



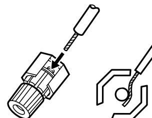
② しん線の先端をしっかりとよじる



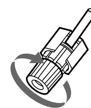
③ねじをゆるめる

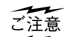


④しん線を差し込む



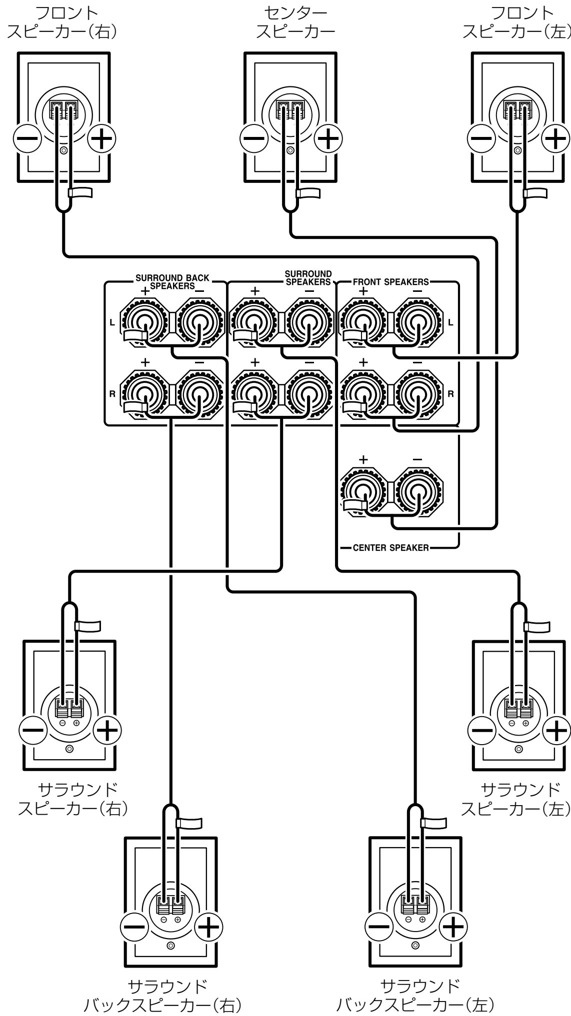
⑤ねじを締め付ける





しん線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞15ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」（☞16ページ）をご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが4Ω以上6Ω未満のスピーカーを接続するときは、32ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。

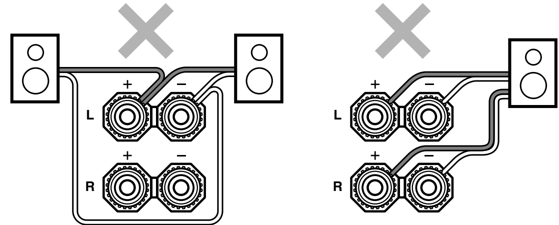


サラウンドバックスピーカーを１つだけ使用する場合は、SURROUND BACK SPEAKERS（L）端子に接続してください。

5.1chの場合は、FRONT SPEAKERS（L/R）、CENTER SPEAKER、SURROUND SPEAKERS（L/R）端子に接続してください。

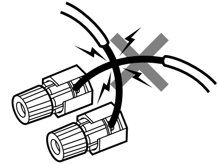
ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



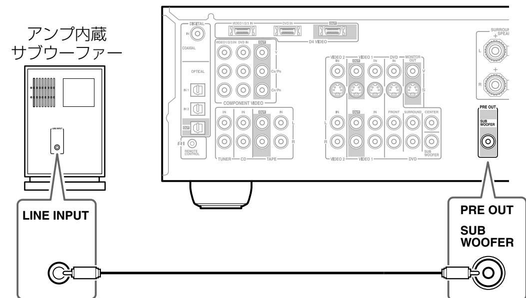
危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。



サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを
SUBWOOFER PRE OUT端子に接続します。



！ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファー側で設定ができる場合、音量は八分目にし、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルタースイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

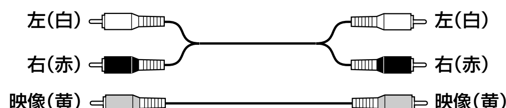
接続をする

接続の前に

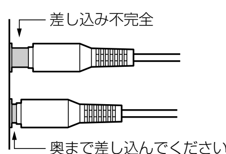
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（Vの表示）に接続してください。



- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。



光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像/音声ケーブルと端子の種類について

映像ケーブルと端子の種類

ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
コンポーネント ビデオコード		Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
D端子用 接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

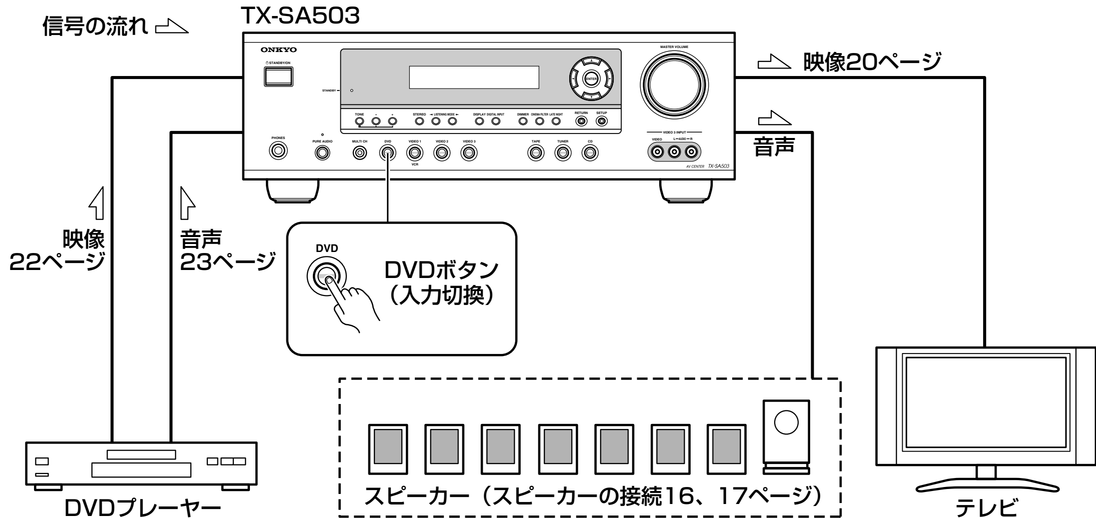
音声ケーブルと端子の種類

ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
光デジタルケーブル（OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
同軸デジタルケーブル（COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
マルチチャンネル 接続コード		FRONT / SURROUND / CENTER / SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

AVセンターを使う

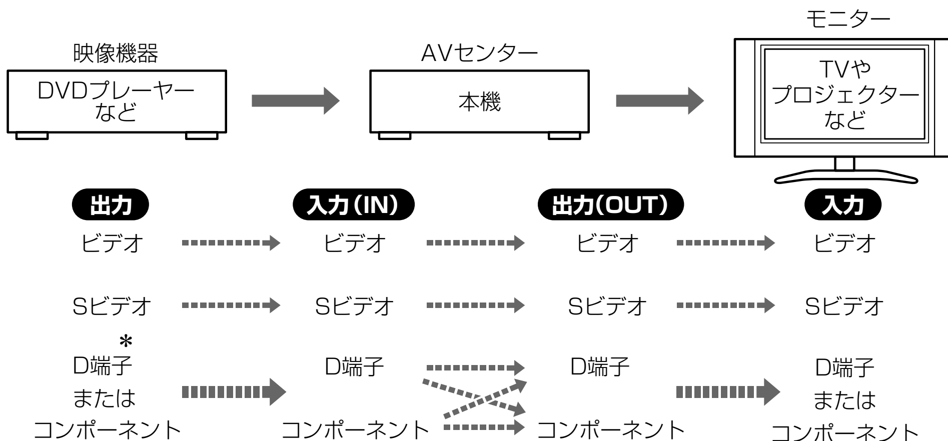
DVDプレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVDプレーヤーと組み合わせる場合



映像接続のしくみ

本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントの4種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。



＊映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- D4 VIDEO IN/OUT（ビデオ イン アウト）端子とCOMPONENT（コンポーネント） VIDEO IN/OUT端子は内部で並列になるように設計されていますので、1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO DVD IN端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN端子には何も接続しないでください。

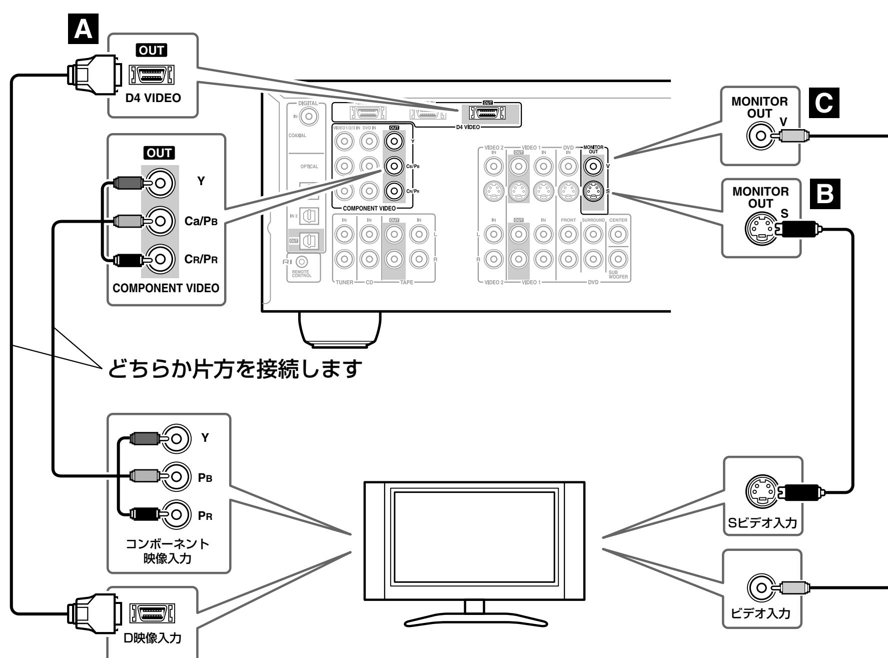
テレビやプロジェクターと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

！ヒント

19ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。



接続	TX-SA503	信号の流れ	テレビ/プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT端子 または COMPONENT VIDEO OUT端子	➡	D映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子	最良
B	MONITOR OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
C	MONITOR OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準

ステップ2：音声接続をする

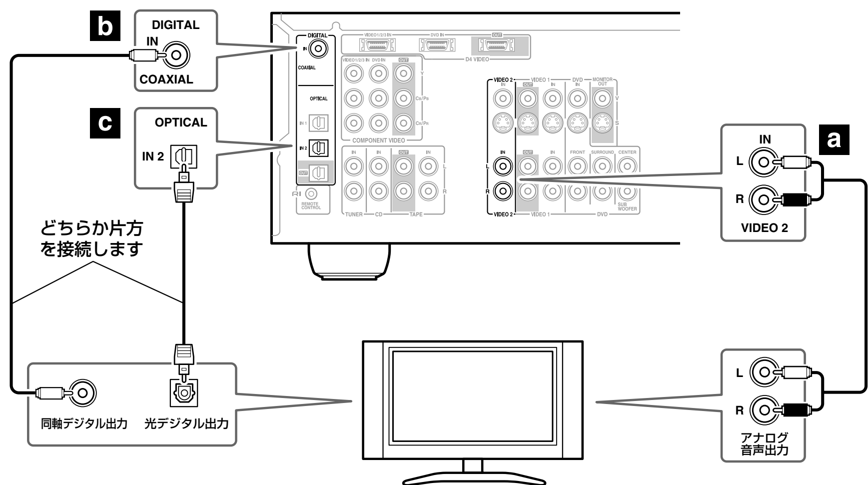
a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続
- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RIオーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です。(☞30ページ)

→ a の接続をする

BSデジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは…

→ b または c の接続をする



接続	TX-SA503	信号の流れ	テレビ/プロジェクター
a	VIDEO 2 IN L/R端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2端子	←	光デジタル出力端子

！ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

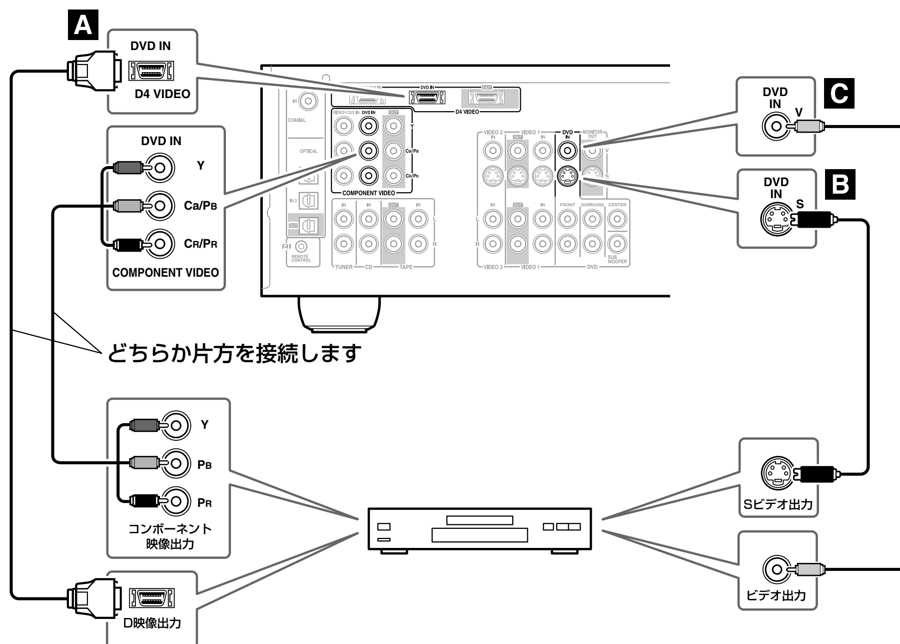
DVDプレーヤーと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでDVDプレーヤーと映像接続をしてください。

！ヒント

19ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。



接続	TX-SA503	信号の流れ	DVDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO DVD IN端子 または COMPONENT VIDEO DVD IN端子	←	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD IN S端子	←	Sビデオ出力端子	良い
C	DVD IN V端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準

ステップ2：音声接続をする

a、b、c、d の接続から必要な接続を選んでDVDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続
- DVDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製DVDプレーヤーと連動させるときに必要です。（☞29ページ）

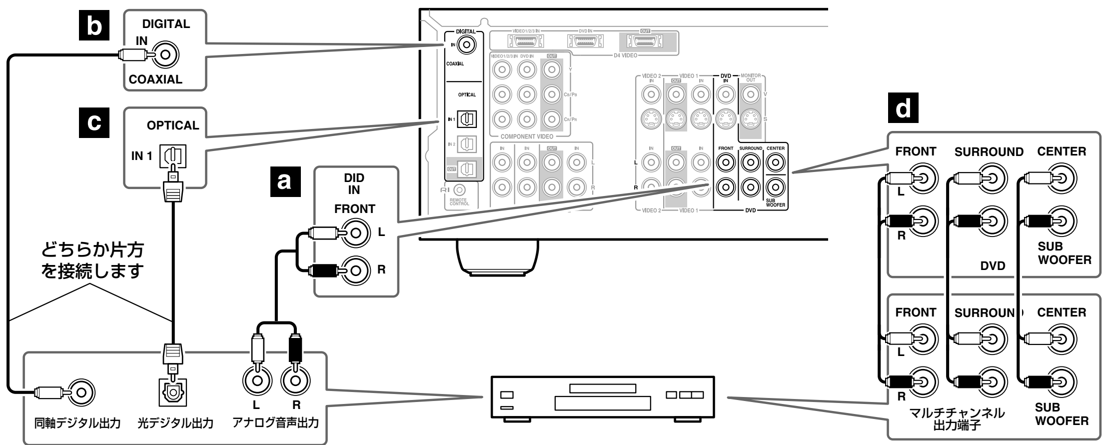
→ a の接続をする

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは…

→ b または c の接続をする

DVDオーディオやスーパーオーディオCD対応のDVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をするときは…

→ d の接続をする



接続	TX-SA503	信号の流れ	DVDプレーヤー
a	DVD IN FRONT L/R端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 1端子	←	光デジタル出力端子
d	DVD IN FRONT/SURROUND/CENTER/SUBWOOFER端子	←	マルチチャンネル（5.1ch）出力端子

！ヒント

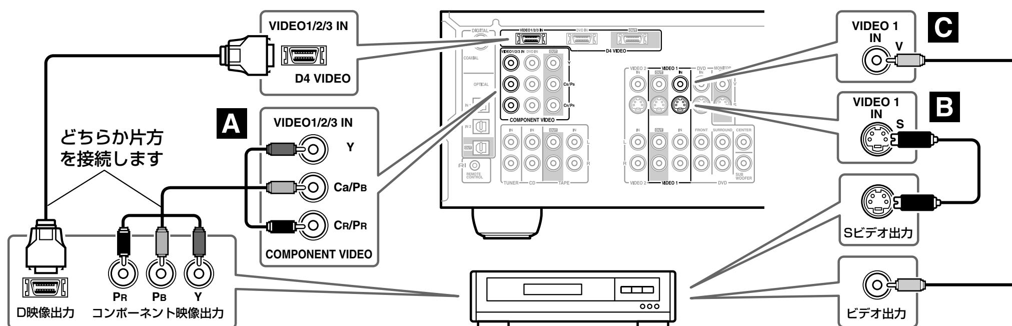
DVDプレーヤーに5.1チャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときは、DVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（再生編）

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでビデオデッキやDVDレコーダーと映像接続をしてください。

- 19ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。



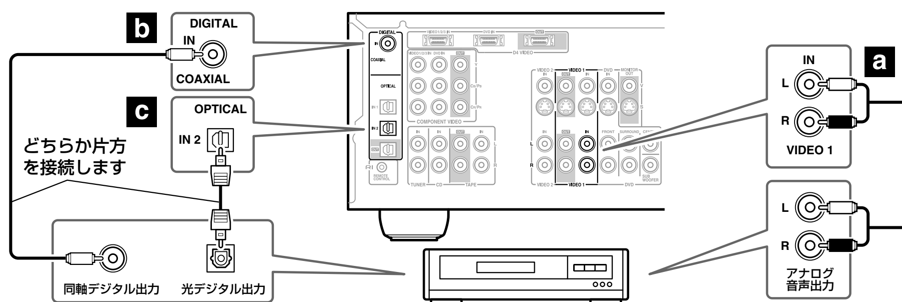
接続	TX-SA503	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー
A	D4 VIDEO VIDEO1/2/3 IN端子 または COMPONENT VIDEO VIDEO1/2/3 IN端子	←	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	VIDEO1 IN S端子	←	Sビデオ出力端子
C	VIDEO1 IN V端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキやDVDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 → a の接続をする

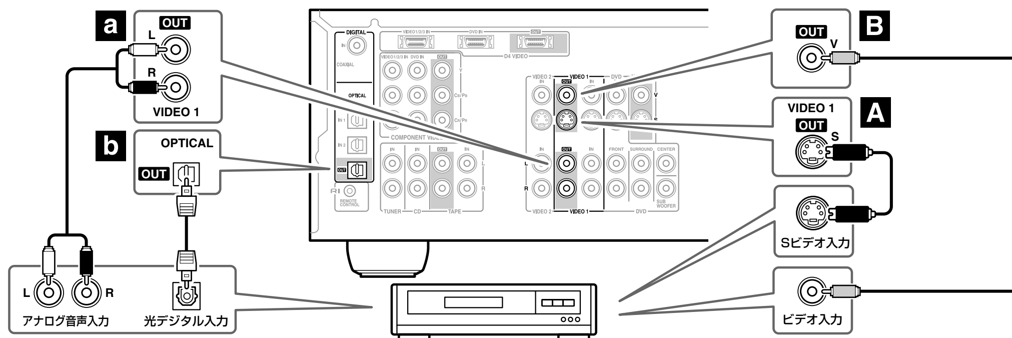
ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは… → b または c の接続をする



接続	TX-SA503	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー
a	VIDEO 1 IN L/R端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2端子	←	光デジタル出力端子

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ1：ビデオデッキやDVDレコーダーと、A または B の映像接続をしてください。
● 19ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。
ステップ2：アナログ録音する場合は a、デジタル録音する場合は b の音声接続をしてください。

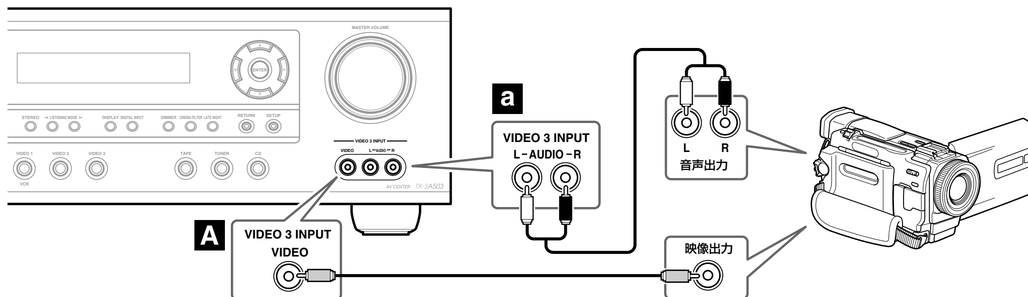


接続	TX-SA503	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー
A	VIDEO 1 OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子
B	VIDEO 1 OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子
a	VIDEO 1 OUT L/R端子	➡	アナログ音声入力端子
b	DIGITAL OUT OPTICAL端子	➡	光デジタル入力端子

ご注意　録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。

ビデオカメラやゲーム機と接続する

ステップ1：A の映像接続をしてください。　ステップ2：a の音声接続をしてください。



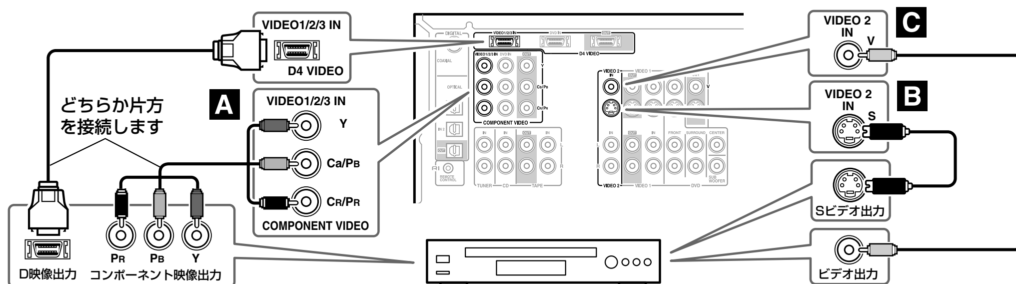
接続	TX-SA503	信号の流れ	ビデオカメラ/ゲーム機
A	VIDEO 3 INPUT VIDEO端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	VIDEO 3 INPUT L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子

BSチューナー、LDプレーヤーなどと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでBSチューナーやLDプレーヤーと映像接続をしてください。

● 19ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。



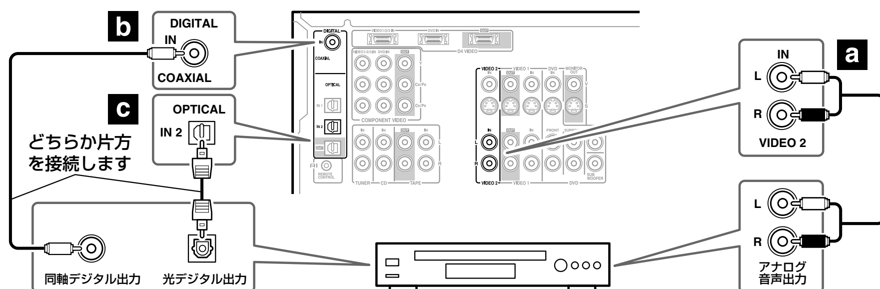
接続	TX-SA503	信号の流れ	BSチューナー/LDプレーヤー
A	D4 VIDEO VIDEO1/2/3 IN端子 または COMPONENT VIDEO VIDEO1/2/3 IN端子	←	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	VIDEO2 IN S端子	←	Sビデオ出力端子
C	VIDEO2 IN V端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでBSチューナーやLDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 → a の接続をする

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは… → b または c の接続をする



接続	TX-SA503	信号の流れ	BSチューナー/LDプレーヤー
a	VIDEO 2 IN L/R端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2端子	←	光デジタル出力端子

ご注意　本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

CDプレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

■CDプレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

ステップ1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

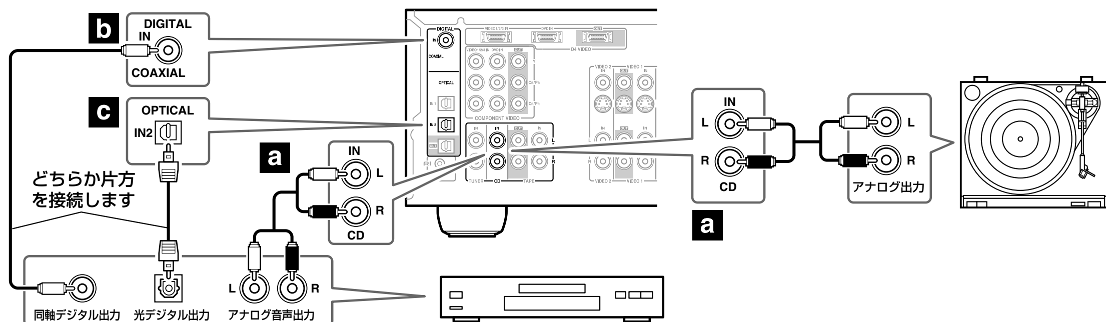
CDプレーヤーの基本的な接続
- CDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製CDプレーヤーと連動させるときに必要です。(☞29ページ)

フォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

→ a の接続をする

CDのPCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは…

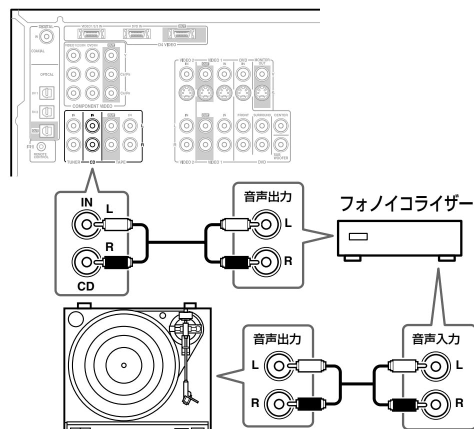
→ b または c の接続をする



接続	TX-SA503	信号の流れ	CDプレーヤー/レコードプレーヤー
a	CD IN L/R端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2端子	←	光デジタル出力端子

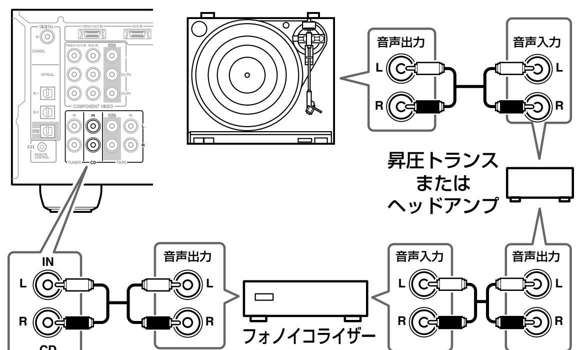
■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いているL/R IN端子を接続します。



■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。
フォノイコライザーを本機の空いているL/R IN端子に接続します。



詳しい説明は、レコードプレーヤーやフォノイコライザーの取扱説明書をご覧ください

カセットデッキ、MDレコーダー、DAT、CDレコーダーを接続する

ステップ1：音声接続をする

a、b、c、dの接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続
- アナログ録音することができます。
- RI端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。(☞29ページ)

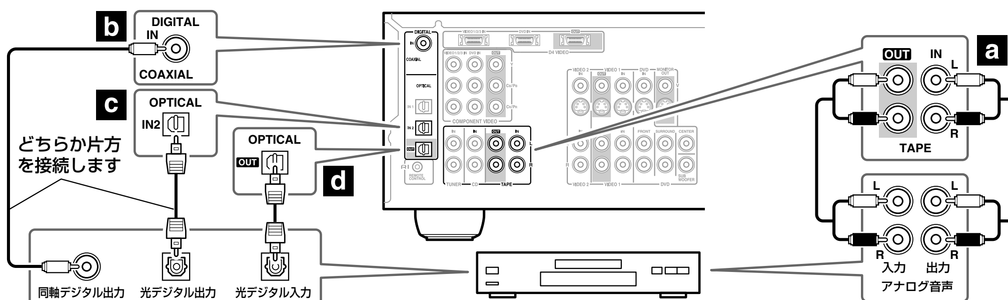
→ a の接続をする

PCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは…

→ b または c の接続をする

デジタル録音するときは…

→ d の接続をする

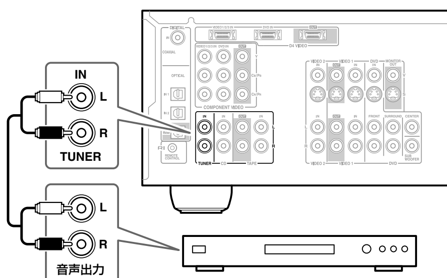


接続	TX-SA503	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R端子 TAPE OUT L/R端子	← →	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2端子	←	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OUT OPTICAL端子	→	光デジタル入力端子

チューナーを接続する

ステップ1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。



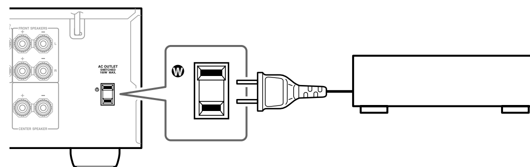
オーディオ機器の電源プラグを本機につなぐ

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用するオーディオ機器の電源プラグを差し込むことができます。本機の電源を入れるとコンセントが通電します。

100Wを超える機器は絶対に接続しないでください。RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

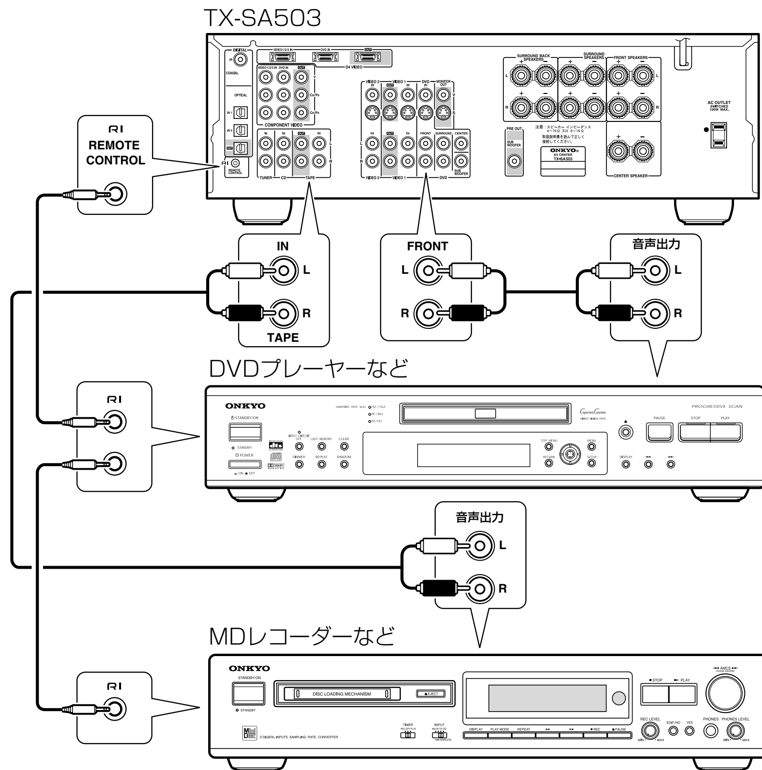
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓌ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。



オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。22～28ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。



オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLET）に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

DVDプレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、MULTI CH（マルチチャンネル）ボタンを押す必要があります。（☞38ページ）
MDレコーダーとCDレコーダーの場合は、入力表示を「MD」や「CDR」に切り換えてください。（☞35ページ）

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI接続した機器を操作することができます。（☞12ページ）
DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーは、RI専用リモコンコードを登録してください。（☞51ページ）

ご注意

- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、カスタマーセンターにお問い合わせください。

RI オーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

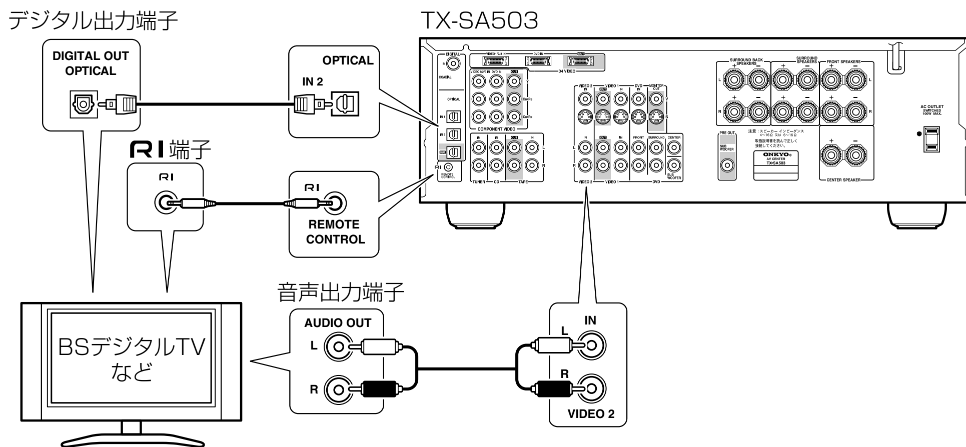
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

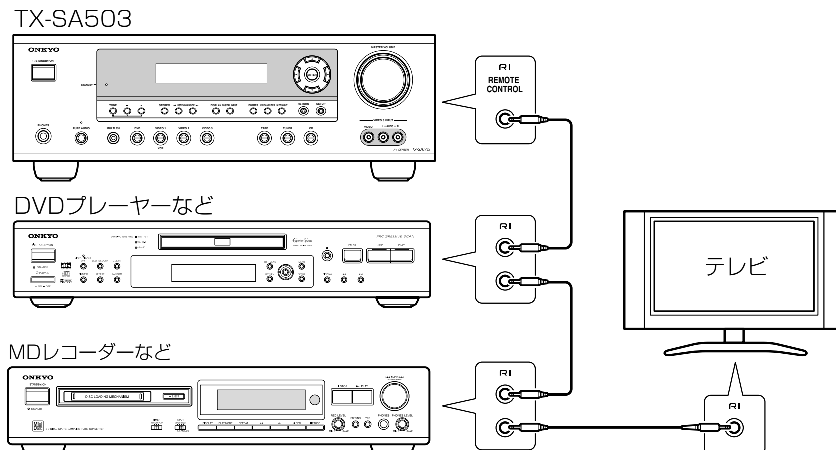
> 連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
> 本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

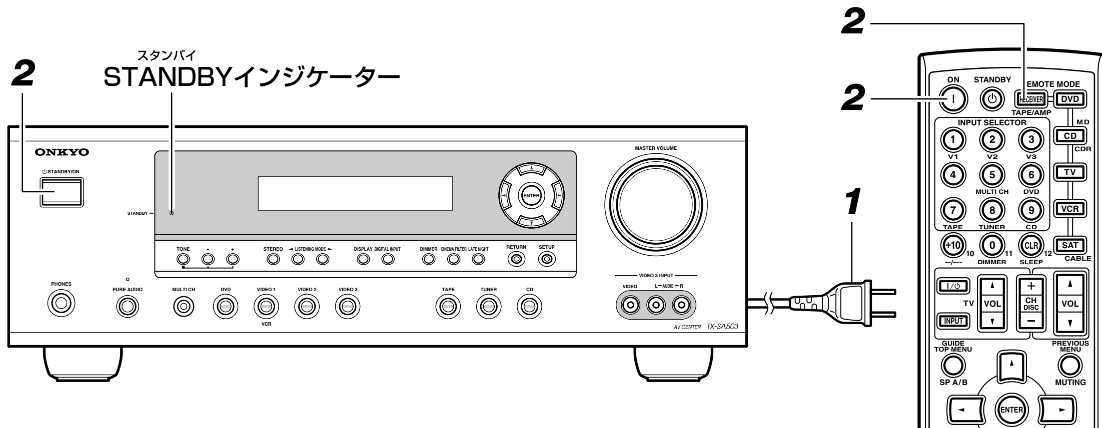
- 本機のVIDEO（ビデオ）2音声入力（VIDEO 2 IN L/R）端子を接続する
- モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL（デジタル） OPTICAL（オプティカル） IN（イン） 2端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）



- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。



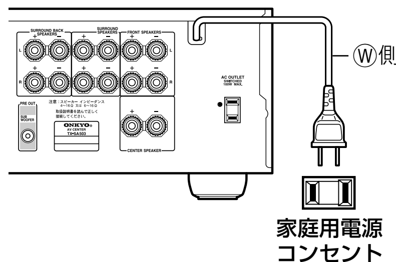
電源を入れる



1

電源コードをコンセントに接続する

STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。



電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

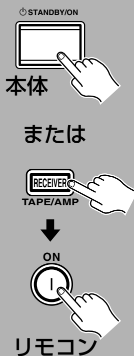
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源コードの目印線（↑W↑）側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合は、聞きくらべて音の良い方向に差し込んでください。

ご注意

電源コードを抜くときは、必ず本機をスタンバイ状態に戻してから行ってください。

2



本体のSTANDBY（スタンバイ）/ON（オン）ボタン、またはリモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してからON（オン）ボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタン、MULTI（マルチ） CH（チャンネル）ボタンやリモコンのINPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンを押しても電源を入れることができます。
また、リモコンのONボタンをもう一度押すと、RI接続をした全機器の電源が入ります。

スタンバイ状態に戻すには

本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。

初期設定をする

スピーカーの設定をする

AMPボタン

▲/▼/◀/▶、ENTERボタン

RETURNボタン

SETUPボタン

スピーカーインピーダンスの設定

接続したスピーカーのインピーダンスを設定します。
接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1 AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2 ▲/▼ボタンを押して「0. Hardware Setup」を選び、ENTERボタンを押す

```
0.HardwareSetup
```

3 ◀/▶ボタンを押して「4 ohms」または「6 ohms」を選ぶ

4 ohms：接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms：接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

RETURNボタンを押して、次の設定「スピーカー環境を設定する」の手順*2* 以降を続けて操作してください。
SETUPボタンを押すと、設定が終了します。

スピーカー環境を設定する

接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安

ユニット部直径

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

1 AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2 ▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Config（スピーカー環境）」を選び、ENTERボタンを押す

「Subwoofer」の設定が表示されます。

```
Subwoofer   :Yes
```

3

◀/▶ボタンを押して、サブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes（イエス）：サブウーファーを接続している場合
No（ノー）：サブウーファーを接続していない場合

4

▼ボタンを押して「Front（フロント）」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small（スモール）：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順***3*** で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は表示されません。

5

▼ボタンを押して「Center（センター）」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None（ナン）：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順***4*** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6

▼ボタンを押して「Surround（サラウンド）」を選び、◀/▶ボタンで左右サラウンドスピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None（ナン）：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順***4*** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▼ボタンを押して「Surr Back（サラウンド バック）」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None（ナン）：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順***6*** で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。
- 手順***6*** で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

8

▼ボタンを押して「SurrBack ch（サラウンド バック チャンネル）」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch（チャンネル）：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合（SURROUND BACK SPEAKER L端子に接続してください。）
2ch（チャンネル）：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

手順***7*** で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。

9

SETUP

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

入力の設定をする

デジタル入力端子の設定

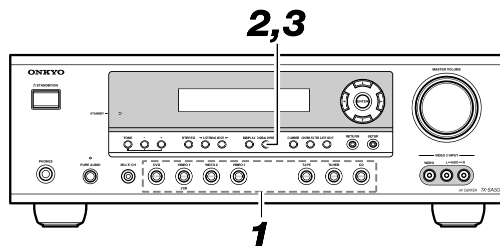
デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「－－－－」にする必要があります。

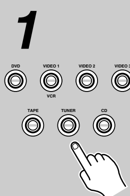
入力	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT1（オプティカル1）
VIDEO 1（ビデオ）	－－－－（アナログ）
VIDEO 2	OPT2（オプティカル2）
VIDEO 3	－－－－（アナログ）
TAPE（テープ）	－－－－（アナログ）
TUNER（チューナー）	－－－－（アナログ）
CD	－－－－（アナログ）

例：**本機後面のOPTICAL（オプティカル） 2端子にCDプレーヤーを接続した場合**
CDのデジタル入力端子の初期設定は「－－－－」(アナログ）のため、「OPT2」に設定を変更します。

DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合
DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT 1のため、「－－－－」に設定を変更します。

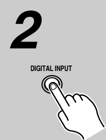


1



入力切換ボタンを押して、変更したい機器を選ぶ

2

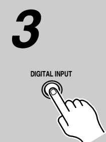


DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）ボタンを押す

現在の設定が表示されます。

CD : －－－－

3

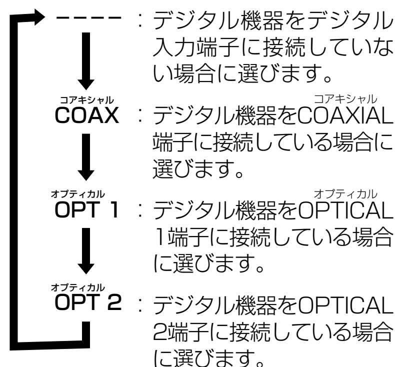


DIGITAL INPUTボタンをくり返し押して、接続した端子を表示させる

CD :OPT2

本機後面のOPTICAL 2端子にCDプレーヤーを接続した場合

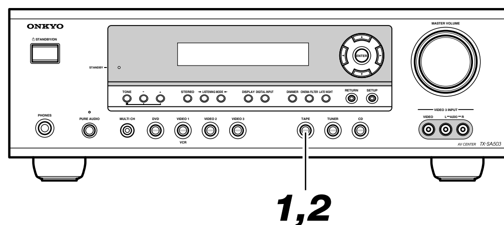
ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。



約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

入力表示を切り換える（TAPE/MD/CDR）

オンキヨーのRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。



1



入力切換ボタンの「TAPE」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

2



TAPEボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

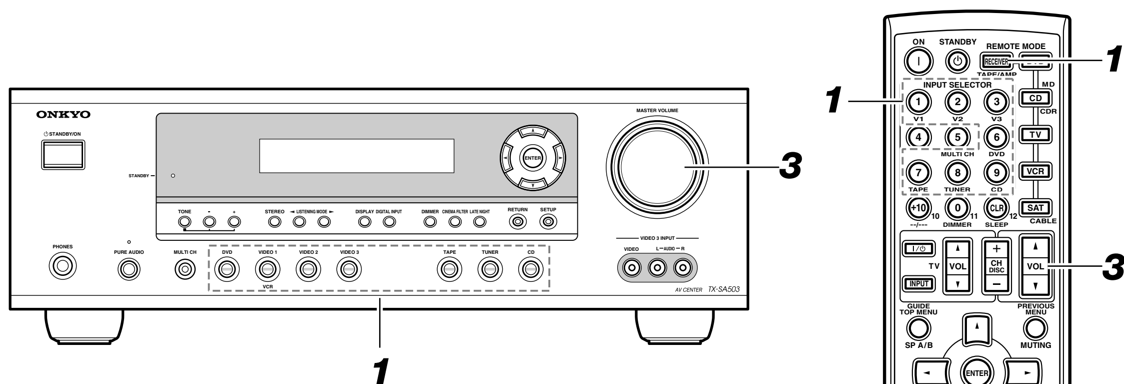
MD

CDR

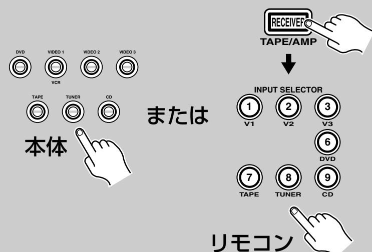
この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「TAPE」と表示が切り換わります。

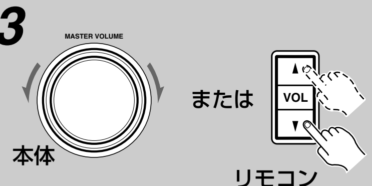
映画・音楽を鑑賞する（基本編）

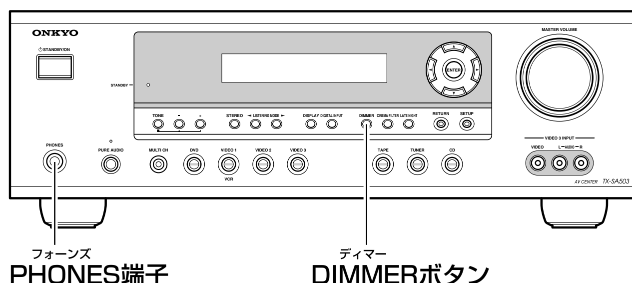
接続した機器を再生する

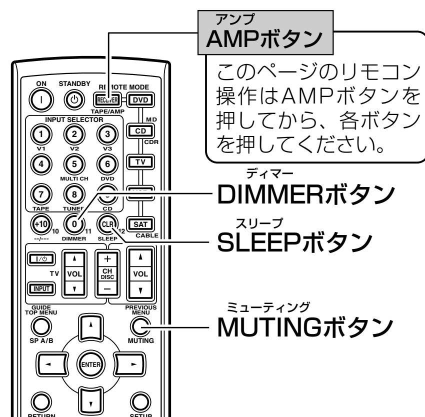


1	**再生する機器を選ぶ** 本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してから入力切換ボタンを押します。 **！ヒント** リモコンのV1、V2、V3ボタンは、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3を表しています。
2	**選んだ機器の再生を始める** 映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。 また、DVD対応ゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。
3	**本体のMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみ、またはリモコンのVOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する** 音量は基本的にMin・1・2·····78・79・Maxまでの範囲で調整できます。 **！ヒント** 本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。
4	**リスニングモードを楽しむ** 詳しくは40ページをご覧ください。









一時的に音量を小さくする



リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■解除するには

もう一度MUTINGボタンを押してください。

（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ）ボタンを押した場合にも解除されます。）

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。

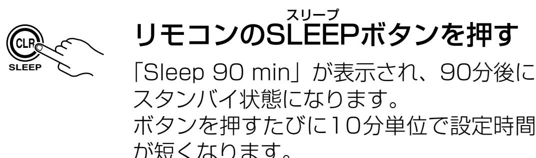


本体またはリモコンのDIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう

スリープタイマーを使う



リモコンのSLEEP（スリープ）ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

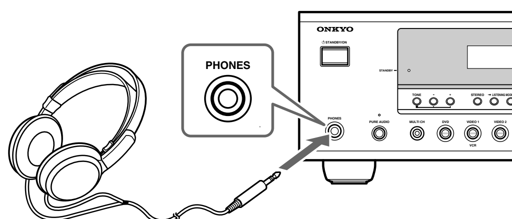
■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

ヘッドホンで聞く



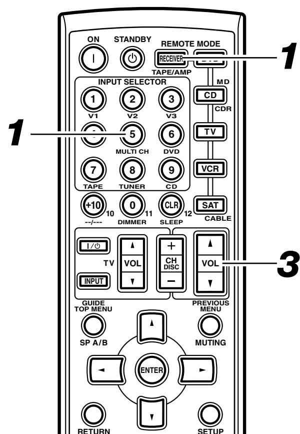
PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

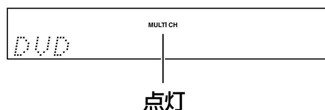
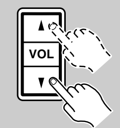
- 接続する時は音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中は、スピーカーからの音が消えます。
- 「Pure Audio（ピュア オーディオ）」、「Direct（ダイレクト）」または「Mono（モノ）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Direct」、「Stereo」または「Mono」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。23ページの通り正しく接続されていることを確認してください。



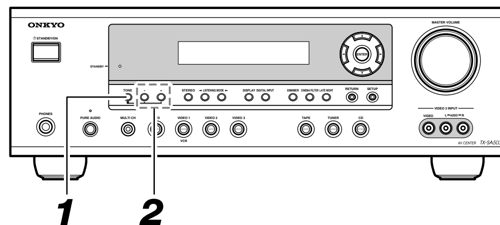
1 	**AMPボタンを押してからMULTI CHボタンを押して、「MULTICH」表示を点灯させる** 
2	**DVDプレーヤーを再生する** 「スピーカー環境の設定」(☞32ページ)に関係なく、左右フロント、センター、左右サラウンドスピーカー、サブウーファーから音が出ます。
3 	**VOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する** 音量は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまでの範囲で調整できます。 **！ヒント** 本体の入力切換ボタン、MASTER VOLUMEつまみでも操作できます。

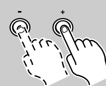
ご注意

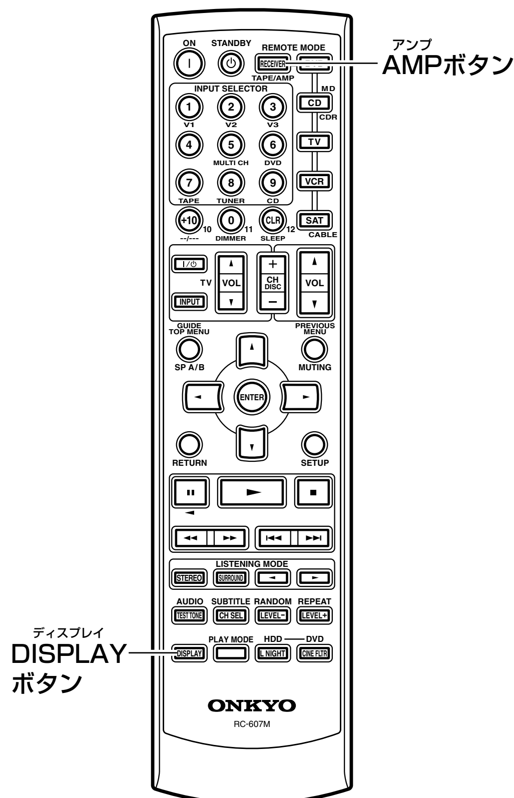
「Multich」を選んでいるときは、DirectとPure Audioのリスニングモードを選ぶことができます。また、それ以外のリスニングモードを使用中に「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

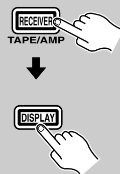


1 	**TONEボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ**
2 	**＋/－ボタンを押して、レベルを調整する** お買い上げ時は「0」ですが、－10dB～＋10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。



表示を確認する

1



AMP（アンプ）ボタンを押してから、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

本体のDISPLAYボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
V2 Stereo

● 入力信号がPCMのとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数 *1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数 *1 →（入力ソースと音量へ戻る）

PCM
PCM fs : 48 kHz

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット *1,2 → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット *1,2 →（入力ソースと音量へ戻る）

DD D
Dolby D :3/2.1

A B C

*1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

*2 フォーマット表示の意味

A :入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

B :入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

C :入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- : なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

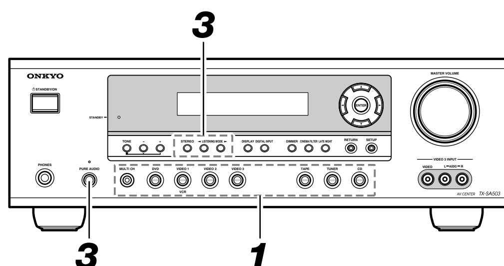
● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

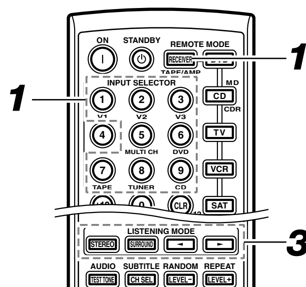
→ 入力ソースと音量 → 入力信号と音声の数 → 入力ソースと選択音声 → 入力信号と音声の数 →（入力ソースと音量へ戻る）

AAC
AAC :1+1

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ





本体のボタンで選ぶ

1 入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 LISTENING MODE◀/▶ ボタン、PURE AUDIOボタンまたはSTEREOボタンでリスニングモードを選ぶ

または

または

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

PURE AUDIO：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。ピュアオーディオインジケーターが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

リモコンで選ぶ

1 AMPボタンを押してから入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 STEREOボタン、SURROUNDボタンまたはLISTENING MODE◀/▶ ボタンでリスニングモードを選ぶ

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

SURROUND：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞21～28ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">入力信号の種類</th><th rowspan="3">PCM[*1]
または
アナログ</th><th colspan="4">Dolby Digital</th><th colspan="4">DTS/DTS 96/24[*2]</th><th colspan="4">AAC</th><th rowspan="3">マルチ
チャン
ネル</th></tr>
<tr><th rowspan="2">3/2
2/2</th><th rowspan="2">2/0</th><th rowspan="2">1/0,1+1</th><th rowspan="2">その他</th><th rowspan="2">3/2</th><th rowspan="2">2/0</th><th colspan="2">DTS-ES</th><th rowspan="2">3/2
2/2</th><th rowspan="2">2/0</th><th rowspan="2">1/0,1+1</th><th rowspan="2">その他</th></tr>
<tr><th>Discrete</th><th>Matrix</th></tr>
<tr><td colspan="2">主なソース
リスニングモード</td><td>カセット/CD
ビデオ
ラジオ
テレビなど</td><td colspan="4">DVD、ビデオなど</td><td colspan="4">DVD、ビデオ、CDなど</td><td colspan="4">BSデジタル放送など</td><td>DVD</td></tr>
<tr><td colspan="2">Pure Audio
Direct</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2">○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">Stereo
Mono</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2">○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Multich</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">PLIIx Movie/Music/Game[*3]
Neo:6 Cinema
Neo:6 Music[*4]</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td colspan="2"></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">AAC</td><td>AAC</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>AAC＋Dolby EX
AAC+PLIIx Music</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>AAC+PLIIx Movie</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">Dolby</td><td>Dolby D</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Dolby D EX
Dolby D+PLIIx Music</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Dolby D+PLIIx Movie</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">DTS</td><td>DTS, DTS 96/24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td colspan="2">○[*5]</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>DTS-ES Discrete</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>DTS-ES Matrix</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>DTS+Neo:6
DTS+Dolby EX
DTS+PLIIx Music</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>DTS+PLIIx Movie</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>オンキヨー
独自の
リスニング
モード</td><td>Mono Movie
Orchestra
Unplugged
Studio-Mix
TV Logic
All Ch Stereo
Full Mono</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td colspan="2">○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。

＊1. Pure AudioとDirectのとき、PCMでサンプリング周波数が32、44.1、48kHzの場合はそれぞれ64、88.2、96kHzとして処理されます。また、サンプリング周波数が96kHzの場合、Pure Audio, Direct、Stereo以外では48kHzとして処理されます。
＊2. DTS 96/24として処理されます。これ以外は通常のDTSとして処理されます。
＊3. サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLIIになります。
＊4. サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
＊5. サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。

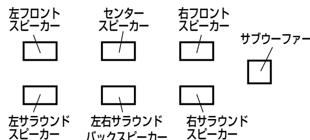
！ヒント

入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。（☞39ページ）

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。



Direct（ダイレクト）

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

Pure Audio（ピュア オーディオ）

Direct（ダイレクト）モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Mono（モノ）

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2種類の言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックを再生できます。

Stereo（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Dolby Pro Logic II（ドルビー プロ ロジック）

2チャンネルで収録されたソースを5.1チャンネルで再生するモードです。映画に最適なMovie（ムービー）モード、音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードとゲームに最適なGame（ゲーム）モードの3つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。Gameモードでは、ステレオ入力されたゲーム機の音声から立体感のある音場を作り出します。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビー プロ ロジック）

サラウンドバックスピーカーを接続しているとき、2チャンネルや5.1チャンネルの音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモード、信号の移動感を最大限に発揮するGameモード（2チャンネル入力時のみ）が選べます。

Neo:6（ネオ）

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX（ドルビー デジタル）

5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついたDVD,LDの再生時に楽しむことができます。

DTS

限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。dts マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete（ディスクリート）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。
dts ES マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Neo:6

DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをNeo:6技術を使って6.1チャンネルで再生します。dts DIGITAL SURROUND マークや dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Dolby EX

DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをDolby EX技術を使って6.1チャンネルで再生します。
dts DIGITAL SURROUND マークや dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

AAC

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

AAC ＋ Dolby EX

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

■オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施したセンター音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

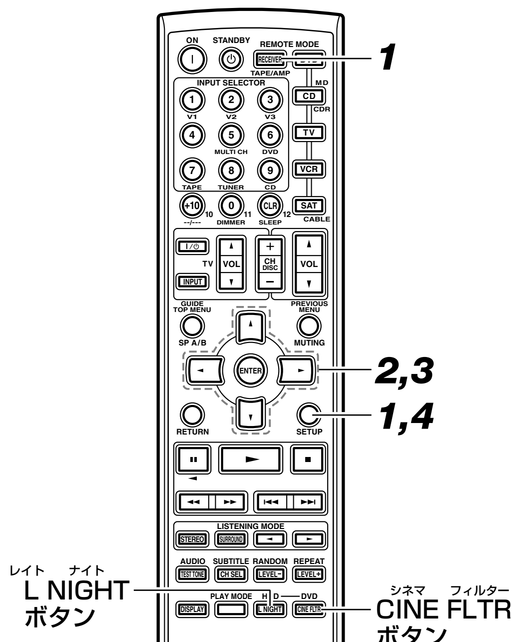
All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。左フロントスピーカー、左サラウンドスピーカー、左サラウンドバックスピーカーからは左フロントの音声を、右フロントスピーカー、右サラウンドスピーカー、右サラウンドバックスピーカーからは右フロントの音声を出力します。、センタースピーカーからは左右フロントの音声を両方出力し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

設定をする（リスニングモード編）



音響効果の設定をする（Audio Adjustメニュー）

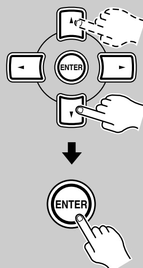
リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定することができます。

1



AMPボタンを押してから、SETUPボタンを押す

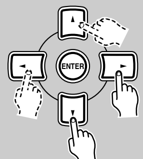
2



▲/▼ボタンを押して「4. Audio Adjust」を選び、ENTERボタンを押す

4.Audio Adjust

3



▲/▼ボタンで設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

4



SETUPボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタンでも操作することができます。

主音声と副音声を切り換える

Multiplex

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。

DISPLAYボタンを押して、表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら音声多重放送です。

Main：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）

Sub：副音声を出力します。

M/S：主音声と副音声の両方を出力します。

Mono時の設定をする

Mono（2ch）

2チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L＋R：左右チャンネルの信号を両方再生します。（お買い上げ時の設定）

L：左チャンネルの信号を再生します。

R：右チャンネルの信号を再生します。

Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic IIx Music時の音質を調整する

ご注意

- 2チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを2チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは、設定できません。

Panorama

前方の音場を横方向に広げることができます。

お買い上げ時の設定は「Off」に設定されています。

On：パノラマ効果をオンにします。

Off：パノラマ効果をオフにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
初期設定は「3」に設定されています。

!ヒント

- 「3」を中心に、2、1、0にすると後方へ、4、5、6にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。 逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。初期設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

DTS Neo:6 Music時の音質を調整する

Center Image

サラウンドスピーカーを接続していないときは、設定できません。
「DTS Neo：6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。初期設定は「3」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby Digital EX信号の再生方法を設定する

Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。

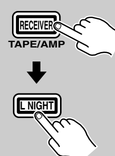
Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、リスニングモードがDolby Digital EXに切り換わります。（お買い上げ時の設定）

Manual：「PL IIx Movie」、「PL IIx Music」、「Dolby Digital」、「Dolby Digital EX」のリスニングモードが選べます。

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1



リモコンのAMPボタンを押してから、L NIGHTボタンを（くり返し）押す

`Late Night:High`

Off：レイトナイト機能をオフにします。

Low：音量幅を小さくします。

High：音量幅をさらに小さくします。

ご注意

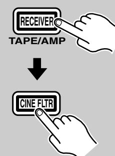
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

- 本体のLATE NIGHTボタンでも操作できます。

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがDolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、DTS、DTS-ES、DTS+Neo:6、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、DTS＋Dolby EX、AAC、AAC＋Dolby EXの場合に働きます。

1



リモコンのAMPボタンを押してから、CINE FLTRボタンを（くり返し）押す

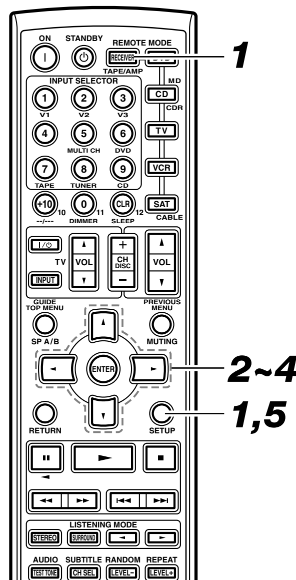
On：高音域の補正をします。

Off：シネマフィルター機能をオフにします。

- 本体のCINEMA FILTERボタンでも操作できます。

設定をする（応用編）

スピーカーの設定をする（応用編）



低音域の設定（クロスオーバー）

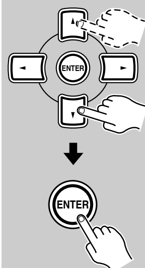
マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。
各スピーカーから出る低音のバランスを良くするために、スピーカーの大きさにあわせて低音域の設定をします。

1



AMP（アンプ）ボタンを押してから、SETUP（セットアップ）ボタンを押す

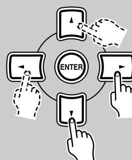
2



▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Config（スピーカー コンフィグ）（スピーカー環境）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

1.SpeakerConfig

3



▲/▼ボタンを押して「Crossover（クロスオーバー）」を選び、◀/▶ボタンで設定する

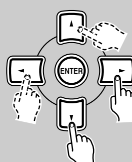
クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。
目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーが無い場合は「1.Speaker Config（スピーカー環境）」（☞32ページ）で最初に「Small（スモール）」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	60
16～20cm	80
13～16cm	100（初期設定）
9～13cm	120
9 cm 以下	150

Double Bass（ダブル バス）の設定

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。
「1.Speaker Config（スピーカー環境）」（☞32ページ）でサブウーファーを「Yes（イエス）（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large（ラージ）」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

4



▲/▼ボタンを押して「Double Bass（ダブル バス）」を選び、◀/▶ボタンで設定する

On（オン）：サブウーファーを強調します。
Off（オフ）：サブウーファーを強調しません。

5



SETUP（セットアップ）ボタンを押す

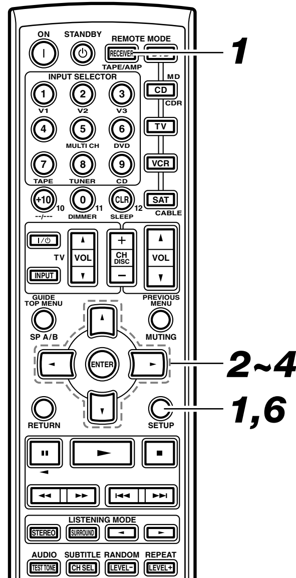
設定が終了したら、SETUPボタンを押します。

！ヒント

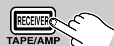
本体のSETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。
視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。



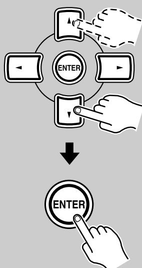
1





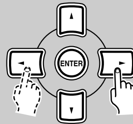
AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2



▲/▼ボタンを押して「2. Sp Distance」を選び、ENTERボタンを押す

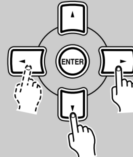
3



「Unit（単位）」を表示中に、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.3m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。
feet：距離をフィートで設定する。1ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

4



▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

5

手順*4*をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

Center→Surr Right→Surr Back R→Surr Back L→Surr Left→Subwoofer

!ヒント

- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから+1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で調整できます。

6



SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。

！ヒント

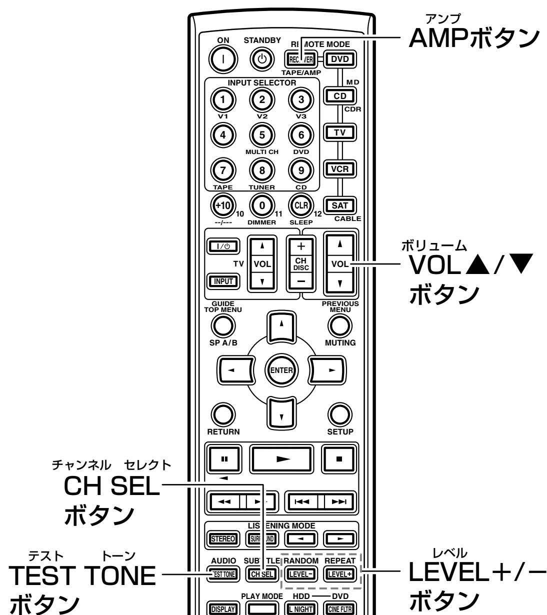
本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

ご注意

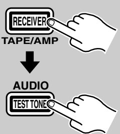
「1. Speaker Config（スピーカー環境）」（☞32ページ）の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

スピーカーの音量レベル調整（テストトーン）

各スピーカーからのテスト音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。
ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネル再生時は、設定できません。



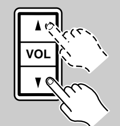
1



リモコンのAMPボタンを押してから、TEST TONEボタンを押す

左フロントスピーカーから「ザー」というテストトーンが出力されます。

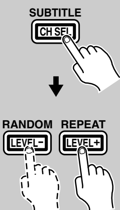
2



VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

テストトーンは小さめなので良く聞こえる音量にVOL▲/▼ボタンで調整してください。

3



CH SELボタンでスピーカーを切り換え、LEVEL＋/－ボタンでテストトーンを調整する

すべてのスピーカーのテストトーンが同じに聞こえるように調整します。

- スピーカーは－12dB～＋12dB、サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲内で調整できます。

4

手順*3*をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテストトーンを調整する

テストトーンは次の順で出力されます。

左フロントスピーカー → センタースピーカー
↑ ↓
サブウーファー　右フロントスピーカー
↑ ↓
左サラウンドスピーカー　右サラウンドスピーカー
↑ ↓
左サラウンドバックスピーカー ← 右サラウンドバックスピーカー

- 「1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは設定できません。

5



TEST TONEボタンを押す

設定が終了します。

ご注意

手順*2* でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、VOL▼ボタンで音量を戻してください。

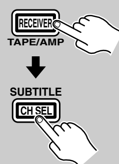
SETUPボタンを使って設定することもできます。

本体のSETUPボタンを押し、▲/▼ボタンで「3. Level Cal」を選び、ENTERボタンを押します。テストトーンが出力されますので、◀/▶ボタンで調整してください。次のスピーカーに切り換えるには▼ボタンを押します。

■スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することもできます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

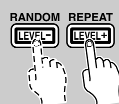


リモコンのAMPボタンを押してから、CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

「1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは調整できません。

2



LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは－12ｄB～＋12ｄB、サブウーファーは－15ｄB～＋12ｄBの範囲で調整できます。

マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調整する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

1

RECEIVER TAPE/AMP
SUBTITLE CH SEL

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してからCH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

左フロントスピーカー → センタースピーカー
↑ ↓
サブウーファー 右フロントスピーカー
↑ ↓
左サラウンドスピーカー ← 右サラウンドスピーカー

2

RANDOM REPEAT
LEVEL− LEVEL+

LEVEL（レベル）＋/－ボタンを押して、音量を調整する

－12dB～+12dBの範囲で調整できます。
- サブウーファーは－30 d B～+12 d Bの範囲で調整できます。

ご注意

マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、マルチチャンネル再生以外での再生時には反映されません。

！ヒント

SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼ボタンで「3. Multi Level（マルチチャンネル レベル）」からも設定できます。

ヘッドホンの音量を調整する

ヘッドホン接続中に、左右の音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

1

RECEIVER TAPE/AMP
SUBTITLE CH SEL

リモコンのAMPボタンを押してからCH SELボタンを押して、「HP Left（ヘッドホン レフト）」（左）または「HP Right（ライト）」（右）を選ぶ

2

RANDOM REPEAT
LEVEL− LEVEL+

LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

－12dB～+12dBの範囲で調整できます。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

「デジタル入力端子の設定（☞34ページ）」でデジタル入力を割り当てた機器は、デジタル信号を優先して再生します。DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、以下の設定をおすすめします。

ONKYO
1 2,3

1

DVD VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3
TAPE TUNER CD

本体の入力切換ボタンで設定する機器を選ぶ

2

DIGITAL INPUT

本体のDIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）ボタンを約3秒押し続ける

現在のデジタル入力モード「Auto（オート）」が表示されます。

3

DIGITAL INPUT

「Auto（オート）」表示中（約3秒間）にDIGITAL INPUTボタンをくり返し押して、デジタル入力モードを選ぶ

デジタル入力モードがDTSやPCMに固定されているときは、それぞれのインジケーターが表示部に点滅します。

Auto（オート）（初期設定）：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するときDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどは録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL）または（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- 録音·録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音·録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されることになります。
- VIDEO 1 IN端子に入力された画像や音声は、VIDEO 1 OUT端子に出力されません。同様にTAPE IN端子に入力された音声は、TAPE OUT端子に出力されません。これは、出力と入力にループができて機器が故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードがPure Audioのとき、ビデオ回路の電源がオフになるため、VIDEO 1 OUT端子からも映像は出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録音·録画する

現在再生中の音楽や映画を録音·録画します。

1 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録音・録画する機器（録音側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音・録画を始める

手順***1***で選んだ再生機器を演奏します。

異なるソースの音楽と映像を録音·録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音·録画する例です。

1 録音する機器（再生側）の準備をする

例：VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

2 VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「VIDEO 3」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順***3***で選んだVIDEO 3のまま変わりません。VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、ビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

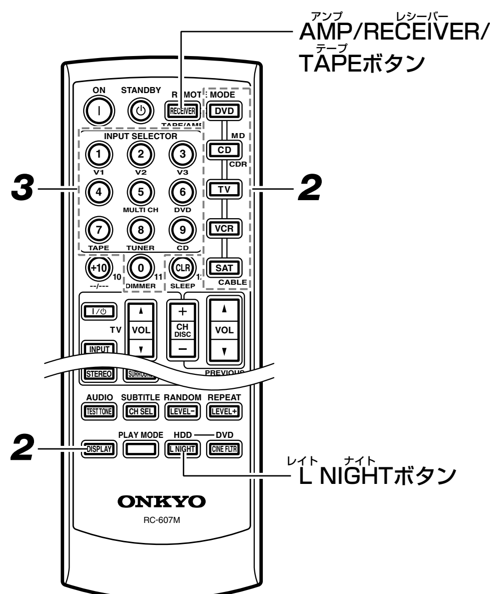
ご注意

録音できるのはTUNER、TAPE、CD端子に接続した機器の音声のみです。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

リモコンコードを登録する

本機に付属のリモコン（RC-607M）で、他社の製品を操作することができます。操作するには、**他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコード（4桁）を登録する必要があります。**
リモコンコード表は54、55ページをご覧ください。
それぞれのカテゴリーから選んだリモコンコードが登録できます。
「AMP/RECEIVER/TAPE」ボタンには登録できません。



オンキヨー製品を操作する「DVD」「CD/MD/CDR」

お買い上げ時の設定では、「DVD」ボタンにオンキヨー製DVDプレーヤー(0627)、「CD/MD/CDR」ボタンにオンキヨー製CDプレーヤー(1817)が登録されています。
オンキヨー製MDレコーダーやCDレコーダーを操作するときは、「CD/MD/CDR」ボタンにリモコンコードを登録してください。

オンキヨー製MDレコーダー：0868
オンキヨー製CDレコーダー：1323

オンキヨー製品RI専用リモコンコード

オンキヨー製品とRI接続しているとき、RI専用リモコンコードを登録すると、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、他のオンキヨー製品を操作することができます。
オーディオ用ピンコードも必ず接続してください。

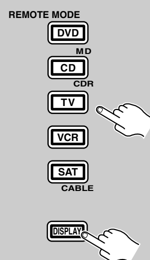
「DVD」ボタン	：1612（オンキヨー製DVDプレーヤー）
「CD/MD/CDR」ボタン	：1327（オンキヨー製CDプレーヤー）
	：1808（オンキヨー製MDレコーダー）
	：1322（オンキヨー製CDレコーダー）

- MDレコーダー、CDレコーダーを操作するときは、35ページの設定で、入力表示を「TAPE」から「MD」または「CDR」に変更する必要があります。

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード(4桁)を54、55ページのリモコンコード表で確かめる

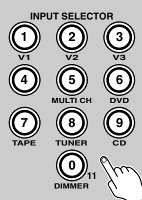
2



登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを3秒間押す

REMOTE MODEボタンが点灯します。

3



30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

REMOTE MODEボタンが2回点滅します。

4

他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

ご注意　製品によっては、動作しない場合があります。

「REMOTE MODE」ボタンの初期設定（お買い上げ時の設定）の戻しかた

1. 初期設定に戻したいREMOTE MODEボタンを押しながら、L NIGHTボタンを3秒間押します。
2. もう一度そのREMOTE MODEボタンを押すと、REMOTE MODEボタンが2回点滅して、初期設定に戻ります。

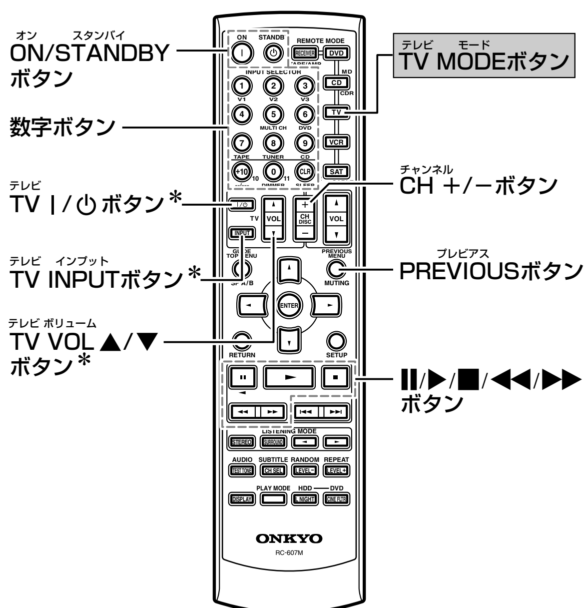
リモコンを初期設定に戻すには

お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMP/RECEIVER/TAPEボタンを押しながら、L NIGHTボタンを3秒間押します。
2. もう一度AMP/RECEIVER/TAPEボタンを押すと、AMP/RECEIVER/TAPEボタンが2回点滅して初期設定に戻ります。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

テレビを操作する



1. TV MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

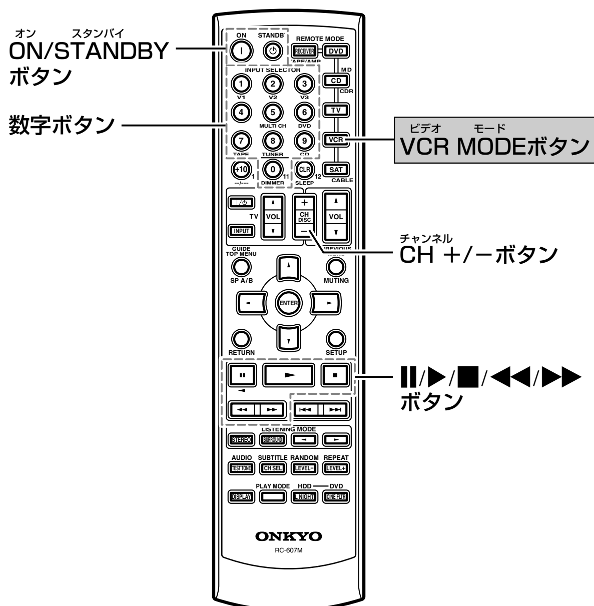
操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY ： テレビの電源ON/OFF
1～12 ： 数字ボタン
PREVIOUS ： 1つ前のチャンネルに戻る
CH ＋/－ ： チャンネル選択
II/▶/■/◀◀/▶▶ ： ビデオデッキの操作ができます。

＊のついたボタンは、どのリモコンモードでもTV MODEボタンに登録したテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼ ： テレビの音量調整
TV I/⏻ ： テレビの電源ON/OFF
TV INPUT ： テレビの入力切換

ビデオデッキを操作する

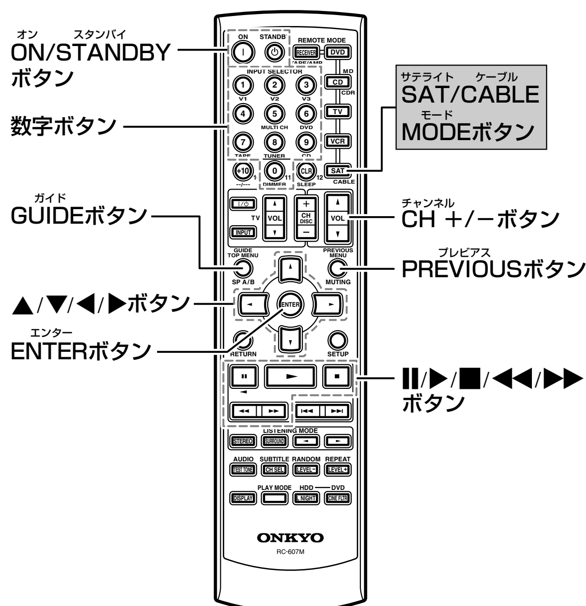


1. VCR MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY ：ビデオデッキの電源ON/OFF
CH ＋/－ ： プリセット局の選局
0,1～9 ： 数字ボタン
▶ ：再生
■ ：停止
◀◀ ：巻戻し
▶▶ ：早送り
II ：一時停止

BSチューナーやケーブルテレビを操作する



1. SAT/CABLE MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：BSチューナー/ケーブルテレビの電源ON/OFF
CH +/−	：プリセットチャンネルの選局
0,1〜9	：数字ボタン
▲/▼/◀/▶	：カーソル移動
ENTER	：決定
PREVIOUS	：1つ前のチャンネルに戻る
GUIDE	：プログラムガイドを表示する
❚❚/▶/■/◀◀/▶▶	：ビデオデッキの操作ができます。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVDボタン

■DVDプレーヤー

アイワ	0533
デノン	0490
フナイ	0675, 0695, 1334
Harman/Kardon	0582, 0702
日立	0573, 0695, 1664
インテグラ	0627, 1612(RI)
日本ビクター(JVC)	0503, 0539, 0558, 0623, 1164, 1275, 1988
ケンウッド	0490, 0534
LG	0591, 0741
マランツ	0539
三菱	0521, 0713, 1403
オンキヨー	0627, 1612(RI)
パナソニック	0490, 1010, 1011
フィリップス	0503, 0539, 0646, 0675, 0885, 1375, 1647, 1812, 1818
パイオニア	0525, 0571, 0631, 1816
RCA	0522, 0571
サムスン	0490, 0573
サンヨー	0695
シャープ	0630, 0752, 1256
ソニー	0533, 0573, 1033, 1069, 1070
トムソン	0522, 0551, 1380
東芝	0503, 0695, 1154, 1988
Xbox	0522
ヤマハ	0490, 0539, 0545, 0646

■DVDレコーダー

フナイ	0675, 1334
日立	1664
日本ビクター(JVC)	1164, 1275
LG	0741
三菱	1403
NEC	1404
パナソニック	0490, 1010, 1011
フィリップス	0646, 1375, 1647, 1812, 1818
パイオニア	0631, 1816
サムスン	0490
ソニー	1033, 1069, 1070
トムソン	0551, 1380
東芝	1988

CD/MD/CDRボタン

■CDプレーヤー

アイワ	0157
デノン	0003, 0626, 0873
Harman/Kardon	0157, 0173, 1202
日立	0032
日本ビクター(JVC)	0072, 1294
ケンウッド	0028, 0036, 0037, 0157, 0190, 0626, 0681, 0826
LG	1208
マランツ	0029, 0157, 0626
オンキヨー	1817, 1327(RI)
パナソニック	0029
フィリップス	0157, 0287, 0626
パイオニア	0032, 0101, 0305, 1062, 1063, 1087
RCA	0032, 0053, 0179, 0305, 0420, 1062
サンヨー	0087, 0179
シャープ	0037, 0861
ソニー	0000, 0100, 0490, 1364
TEAC	0420, 1277, 1280
トムソン	0053
ヤマハ	0032, 0036, 0888, 1292

■MDレコーダー

デノン	0873
ケンウッド	0681, 0826
オンキヨー	0868, 1808(RI)
パイオニア	1063
シャープ	0861
ソニー	0490
ヤマハ	0888

■CDレコーダー

Harman/Kardon	1202
日本ビクター(JVC)	0072, 1294
ケンウッド	0626
LG	1208
マランツ	0626
オンキヨー	1323, 1322(RI)
フィリップス	0626
パイオニア	1062, 1087
ソニー	0000, 0100, 1364
TEAC	0420
ヤマハ	0888, 1292

TVボタン

■テレビ

アイワ	1180, 1187
Dell	1264, 1265
富士通ゼネラル	0186, 0187
フナイ	0264, 0265
日立	0037, 0038, 0145, 0146, 0186, 0187, 1378, 1379
日本ビクター(JVC)	0053, 0055, 0093, 0094, 0160, 0161, 0653, 0654
LG	0037, 0038, 1378, 1379
三菱	0037, 0038, 0093, 0094, 0250, 0251, 1171, 1183
NEC	0053, 0055, 0170, 0172, 0186, 0187, 0264, 0265,1378, 1379
Orion	0037, 0038, 0264, 0265
パナソニック	0037, 0038, 0054, 0056, 0250, 0251, 1168, 1174, 1175, 1177, 1184, 1185
フィリップス	0000, 0001, 0037, 0038, 0054, 0056, 0186, 0187,1455, 1457
パイオニア	0037, 0038, 0166, 0167, 0170, 0172, 0679, 0680, 1260, 1261
サムスン	0037, 0038, 0093, 0094, 0264, 0265
サンヨー	0145, 0146, 0264, 0265, 0424, 0425, 1179, 1186
シャープ	0053, 0055, 0093, 0094, 0787, 0788, 1165, 1166
ソニー	0000, 0001, 0037, 0038, 0053, 0055, 0093, 0094,0145, 0146, 0170, 0172, 0250, 0251, 0424, 0425, 1167, 1170, 1300, 1301, 1651, 1652
トムソン	0037, 0038
東芝	0093, 0094, 0145, 0146, 0264, 0265, 0509, 0510,1169, 1176

VCRボタン

■ビデオデッキ

アイワ	0000, 0037, 0348, 1137, 1291
富士通ゼネラル	0037
フナイ	0000
日立	0000, 0037, 0041, 0042, 0046 0081, 0240
日本ビクター(JVC)	0041, 0045, 0067, 0081,1008, 1279
ケンウッド	0038, 0041, 0067
LG	0037, 0038, 0042, 0045, 1137, 1237
三菱	0000, 0041, 0043, 0048, 0067 0081, 0642, 0807,1343
ナショナル	0226
NEC	0035, 0037, 0038, 0041, 0048, 0067, 0104, 1287
Orion	0121, 0348, 1479
パナソニック	0035, 0162, 0226, 0614, 0616, 1035, 1062, 1244, 1293
フィリップス	0000, 0035, 0081, 0226, 0618, 0739, 0749
パイオニア	0042, 0067, 0081, 0162
サムスン	0045, 0240, 0432
サンヨー	0046, 0047, 0048, 0067, 0104, 0240, 0348, 1330
シャープ	0037, 0048, 0807, 1285
ソニー	0000, 0032, 0033, 0035, 0636, 1232, 1295, 1296, 1447, 1448, 1636, 1972
トムソン	0041, 0060, 0067, 0320, 0722, 1723
東芝	0041, 0042, 0043, 0045, 0067, 0081, 0432, 0828, 0845, 1008, 1290, 1503, 1972

SAT/CABLEボタン

■衛星放送チューナー

DX Antenna	1530
日立	0819, 1250, 1525
ヒューマックス	0863, 1176
日本ビクター(JVC)	0492, 0505, 0506, 0515, 0571 0775, 1170, 1531, 1775
ケンウッド	0853
マスプロ	0173, 0571, 1530
三菱	0749, 1597
NEC	1270, 1519
パナソニック	0247, 0701, 0847, 1526
パイオニア	0853
サムスン	0853, 0863, 1108, 1109,1206, 1276
シャープ	1517
ソニー	0492, 0639, 0847, 0853, 1524, 1639
東芝	0749, 0790, 1285, 1516, 1530, 1597, 1749

■ケーブルテレビ

日立	0014, 0033
NEC	1496
パナソニック	0000, 0008, 0021, 0107,1488
フィリップス	0317, 0817, 1305
パイオニア	0144, 0533, 0877, 1021, 1500, 1877
サムスン	0000, 0144, 1060

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

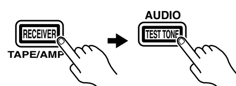
音声が出力されない/小さい

音声信号の設定はされていますか？DIGITAL INPUTボタンをくり返し押して、デジタル入力の設定を正しく行ってください。**（34）**

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。**（17）**
- 入力が正しく選択できているか確認してください。**（36）**
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin·1·2···78·79·Maxまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。**（36）**
- 表示部に"MUTING"と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。**（37）**
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。**（37）**
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。**（27）**
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。**（49）**
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。**（40〜43）**
- スピーカーの「有/無と大きさ」、「距離」、「音量」設定を行ってください。**（32、33、47、48）**

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？



リモコンのAMPボタンを押してからTEST TONEボタンを押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度TEST TONEボタンを押すと、テストトーンは止まります。

表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テストトーンも出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。
  スピーカーの「有/無と大きさ」の設定を行ってください。**（32、33）**

テストトーンは出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Stereo」、「Mono」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない
- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない
- 入力ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。（34）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（39）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- リモコンや本体の「MULTI CH」ボタンを押してください。（38）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

映像

映像が出ない

- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 前面パネルのPURE AUDIOインジケーターが点灯している場合は、LISTENING MODE◀/▶ボタンなどを押して、他のリスニングモードを選んでください。Pure Audioのリスニングモードになっていると、映像は出ません。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子またはコンポーネント接続をしてください。（19）
- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネントまたはD端子接続をしてください。（19）
- D端子とCOMPONENT端子を同じ系統で同時に接続しないでください。正しく映像が出力されません。（19）

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/−）が正しく入っているか確認してください。（8）
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。（8）
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。

困ったときは

- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12）

RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。（51）
- RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12〜14）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TAPE端子にMDレコーダーやCDレコーダーを接続した場合）（35）

オンキヨー製機器（RIなし）や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音/録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

録画ができない

- 「Pure Audio」リスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。（37）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

音量調整が79以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「4. Audio Adjust」の「Multiplex」設定で主音声と副音声を切り換えます。（44）

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の主電源を切った状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音·録画できることを確認の上、録音·録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVIDEO 1 ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。
表示部に「Clear」が表示され、スタンバイ状態になります。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックス 6.1のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

用語集

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルをご使用ください。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力：
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
100W 6Ω 1kHz、全高調波歪率0.1%以下
75W 8Ω 20Hz〜20kHz、全高調波歪率0.08%以下
実用最大出力：
全チャンネル
130W（6Ω、JEITA）
全高調波歪率：0.08%（1kHz 定格出力時）
ダンピングファクター：フロント、8Ω負荷時で60
入力感度/インピーダンス：
LINE：200mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT：200mV/470Ω
周波数特性：
10Hz〜100kHz：+1dB/−3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass：±10dB（50Hz時）
Treble：±10dB（20kHz時）
SN比：
100dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス：4Ωまたは6Ω〜16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（COMPONENT、S VIDEO Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（COMPONENT PB/CB、PR/CR）
0.28Vp-p/75Ω（S Video C信号）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz〜50MHz

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
消費電力：430W
待機時電力：0.1W
最大外径寸法：435(幅)×150(高さ)×374(奥行)mm
質量：10.1kg

●映像入力：
D4：2（D4 VIDEO DVD IN、VIDEO 1/2/3 IN）
コンポーネント：2（COMPONENT DVD IN、VIDEO 1/2/3 IN）
Sビデオ：3（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2）
コンポジット：4（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3 (前面パネル)）

●映像出力：
D4：1（D4 VIDEO OUT）
コンポーネント：1（COMPNENT VIDEO OUT）
Sビデオ：2（VIDEO 1、MONITOR OUT）
コンポジット：2（VIDEO1、MONITOR OUT）

●音声入力：
デジタル：3(OPTICAL2、COAXIAL1)
アナログ：7(DVD(マルチチャンネル)、CD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3（前面パネル)、TUNER)
マルチchアナログ：5.1ch

●音声出力：
デジタル：1（OPTICAL）
アナログ：2（TAPE、VIDEO 1）
サブウーファープリ出力：1
スピーカー出力：左右フロント/センター/左右サラウンド/左右サラウンドバック
ヘッドホン出力：1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高周波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　TX-SA503
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

メモ

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル ☎ 0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または ☎ 072(831)8111（携帯電話、PHSから）



http://www.jp.onkyo.com/

G0504-1

SN 29343938

